

2025（令和7）年度 別科助産専攻シラバス

助産学基礎科目
助産学概論
周産期医学Ⅰ（産科領域）
生殖医療・遺伝学
周産期医学Ⅱ（小児科領域）
母子と家族の心理
生命倫理

助産診断・技術領域
助産診断・技術Ⅰ（妊娠期）
助産診断・技術Ⅱ（分娩期）
助産診断・技術Ⅲ（産褥・新生児期）
ハイリスク助産診断・技術学
助産診断・技術演習Ⅰ（妊娠期）
助産診断・技術演習Ⅱ（分娩期）
助産診断・技術演習Ⅲ（産褥・新生児期）
地域母子保健
地域母子保健演習
助産過程演習
助産管理学

実 習
助産学実習Ⅰ（妊娠期）
助産学実習Ⅱ（分娩期、産褥・新生児期）
助産学実習Ⅲ（継続事例）
助産学実習Ⅳ（助産業務管理）
助産学実習Ⅴ（地域母子保健）

研 究
情報科学演習
助産研究Ⅰ（基礎）
助産研究Ⅱ（実践）

別科助産専攻科		2025(令和7)年度				
授業科目名	助産学概論	担当教員名	間中 伴子・岡本 喜代子			
		区分 (必修・選択)	必修	選択		
			○			
期間	前期	単位／時間数／形態	1単位／15時間／講義			
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】					
◎	① 職業人としての倫理観と慈悲の心を身につけ、すべての人の生命の尊厳を守り、権利を擁護できる能力。					
	② 助産師として必要な知識と助産診断技術、実践力を身につけ自立した助産ケアができる能力。					
	③ 他職種との連携・協働しながら対象者のニーズに応じた支援ができる能力。					
○	④ 地域社会が求める助産師の役割や責務を認識し地域の母子保健の発展に貢献できる能力。					
○	⑤ 助産師として自律し、自ら学び、自己研鑽、真理探究することができる能力。					
【授業の概要】						
助産学の基本的概念およびそれに関連する理論を理解し、社会的責務を遂行するための助産師の役割や業務範囲、関係する法的基盤を理解する。また、助産の現状と課題の動向、母子保健の変遷、助産師の責務、職業倫理について理解を深め、諸外国の動向を学ぶことで、これからの助産学の方向と助産師のあり方について考える。具体的には、助産の概念では、助産の起源、出産の変遷、助産の定義、助産の意義と本質、助産の対象そして助産の将来、また、関係する概念としてリプロダクティブヘルス・ライツ、ジェンダー、性差医療について学ぶ。助産師の定義と業務では、関連する法律、助産師の業務と責任、我が国におけるこれからの助産師の役割と働き方を改めて考察する機会を設ける。さらには、助産師を支える理論と研究においては、助産学を構成する理論、助産研究について師式を深める。他に助産師と倫理、母子保健の動向、助産師の歴史と文化、助産師と教育の在り方を学ぶ。						
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】						
						ディプロマ・ポリシー
						① ② ③ ④ ⑤
1 助産に関係する概念について説明できる。						○
2 助産師の定義と業務について説明できる。						○
3 助産師を支える理論と研究について説明できる。						○
4 助産の歴史と文化について説明できる。						○
5 母子保健の動向について説明できる。						○
6 助産師と教育について説明できる。						○
【授業計画】						
	授業計画	担当者				
1	ガイダンス 第1章 助産の概念 A 助産の概念	間中伴子	予習 第1章を精読し、助産の概念についてまとめておく(30分) 復習 助産の概念について要旨をA4用紙1枚程度にまとめる。(60分)			
2	第1章 助産の概念 B 助産に関係する概念	間中伴子	予習 第1章を精読し、助産に関する概念についてまとめておく(90分) 復習 学んだ内容の要旨をA4用紙1枚程度にまとめる。(90分)			
3	第2章 助産師の定義と業務 A 助産師の 定義と関連する法律 B 助産師の業務と責任と関連する法律 C 我が国におけるこれからの助産師の役割・働き方	間中伴子	予習 第2章を精読し、助産師の定義と業務についてまとめておく(90分) 復習 学んだ内容の要旨をA4用紙1枚程度にまとめる。(90分)			
4	第3章 助産師を支える理論と研究 A 助産学を構成する理論 B 研究と助産師	間中伴子	予習 第3章を精読し、助産師を支える理論と研究についてまとめておく(90分) 復習 学んだ内容の要旨をA4用紙1枚程度にまとめる。(90分)			
5	第4章 助産師と倫理 A 倫理的判断を支える諸概念 B 倫理的な助産実践を支える諸規定 C 助産実践にかかわる倫理的課題と意思決定支援	岡本喜代子	予習 第4章を精読し、助産師と倫理についてまとめておく(90分) 復習 学んだ内容の要旨をA4用紙1枚程度にまとめる。(90分)			
6	第5章 助産の歴史と文化 A 古代から江戸時代までの助産の変遷 B 明治～現在までの助産の変遷 C 諸外国の助産の変遷 D 助産の文化論	岡本喜代子	予習 第5章を精読し、助産の歴史と文化についてまとめておく(90分) 復習 学んだ内容の要旨をA4用紙1枚程度にまとめる。(90分)			
7	第6章 母子保健の動向 A 母子保健の歴史 B 母子保健の動向と諸制度	間中伴子	予習 第6章を精読し、母子保健の動向についてまとめておく(90分) 復習 学んだ内容の要旨をA4用紙1枚程度にまとめる。(90分)			
8	第7章 助産師と教育 A わが国における助産師教育 B 諸外国における助産師教育 まとめ	間中伴子	予習 第7章を精読し、助産師と教育についてまとめておく(90分) 復習 学んだ内容の要旨をA4用紙1枚程度にまとめる。(90分)			
【アクティブラーニング】			チェック欄	その他の工夫		
①:PBL（課題解決型学習）				ビジュランクラウドやDVDを活用する。 Googleフォーム、課題レポートの提出に関してはGoogleドキュメントを活用する。		
②:反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）			○			
③:ディスカッション・ディベート			○			
④:グループワーク			○			
⑤:プレゼンテーション			○			
⑥:実習・フィールドワーク						

【課題のフィードバック】 ・課題レポートに対するフィードバックは、次回の講義に行う。
【成績の評価方法】 定期試験:80%、課題20% 合計:100% 【生成AI利活用（ 有 ）】 1)成績評価の対象となるレポートや課題等の作成において、生成 AI が作成した内容(以下、生成 AI の回答文)をそのまま書き写した提出物は、成績評価の対象として認めません。 活用する場合は、その情報が正しいか確認する作業と引用した場合は、引用した内容と引用元(文献や論文)がわかるように記載してください。 2)生成 AI の回答文を書き写したレポートや論文は、「盗用」、「剽窃(ひょうせつ)」等の不正行為とみなし、懲戒の対象となる可能性があります。 3)課題レポートに関してはGoogle盗用チェック機能を使用します。チェックの結果に10パーセント以上の盗用が認められた場合は、成績評価対象としません。 【 ルーブリック評価の活用（ 無 ）】
【履修申請上の条件】 助産の基礎科目を履修していることが望ましい。
【教科書】 我部山キヨ子編 助産学講座 1 助産学概論 医学書院
【参考書】 ・母子保健研究会編集:わが国の母子保健 ・厚生労働省児童家庭局母子保健課:母子保健の主たる統計 ・看護行政研究会監修:看護六法、新日本法規出版会 ・新版 助産師業務要覧 2024年版〔I 基礎編〕 ・助産業務ガイドライン2019 ・助産力:日本助産師会出版 ・子宮力:日本助産師会出版 ・母乳力:日本助産師会出版 ・助産師の声明/コアコンピテンシー2021:日本助産師会出版
【オープンな教育リソース】 特になし
【担当教員の実務経験】 助産師として臨床では、大学病院、助産所、保健所、院内助産に勤務した。 また、大学院助産師教育、看護系大学母性看護学、看護倫理の教育に携わった経験を生かした講義を行う。
【オフィスアワー】 間中:月～金 12:10～13:00
【教員連絡先】 間中メールアドレス tmanaka@g.t-junshin.ac.jp
【備考】 助産学の入門となる科目です。助産師を目指すものとして自ら課題を見つけ、さらにその課題を自ら解決する能力を身に付けるよう努力しましょう。 本講義は受胎調節実地指導員認定のための講習を含みます。

授業科目名	周産期医学Ⅰ（産科領域）	担当教員名	長谷川 潤一・芥川 修・古川 佳容子・塚本 哲					
		区分 (必修・選択)	必修	選択				
			○					
期間	前期	単位／時間数／形態	1単位／15時間／講義					
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】							
	① 職業人としての倫理観と慈悲の心を身につけ、すべての人の生命の尊厳を守り、権利を擁護できる能力。							
◎	② 助産師として必要な知識と助産診断技術、実践力を身につけ自立した助産ケアができる能力。							
	③ 他職種との連携・協働しながら対象者のニーズに応じた支援ができる能力。							
	④ 地域社会が求める助産師の役割や責務を認識し地域の母子保健の発展に貢献できる能力。							
○	⑤ 助産師として自律し、自ら学び、自己研鑽、真理探究することができる能力。							
【授業の概要】								
周産期の領域における様々な病態生理・治療について学び、妊娠、分娩、産褥期にある対象の正常と異常について学ぶと共に合併症や予防の対応について理解を深める。具体的には、医学的に見たハイリスク妊娠、異常妊娠・合併症妊娠(異常分娩(回旋異常の分娩機転、分娩誘発・促進の方法、VBAC、帝王切開術、骨盤位分娩、吸引・鉗子分娩、異常出血とその対応、産科ショック、DIC、産科麻酔、胎児機能不全、さらに異常産褥(産褥期の異常出血と対応、産褥感染症の原因と対応、血栓・塞栓症、産褥精神障害、尿失禁 乳腺症さらに妊娠・分娩・産褥・授乳期と薬剤、母体－胎児間の免疫、主な母子感染、思春期、成人期、更年期、老年期に起こりやすい異常(ホルモン治療)まで助産師として必須の知識を教授する。								
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】				ディプロマ・ポリシー				
				①	②	③	④	⑤
1 妊娠の生理について説明することができる。					○			○
2 母体－胎児間の免疫、主な母子感染、婦人科感染症について説明することができる。					○			○
3 女性生殖器の疾患と乳房の疾患と検査について説明することができる。					○			○
4 妊娠期の異常・合併症妊娠について学んだ内容を記述することができる。					○			○
5 分娩期の異常・合併症について学んだ内容を記述することができる。					○			○
6 産褥期の異常・合併症について学んだ内容を記述することができる。					○			○
【授業計画】								
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)					
1	妊娠の生理 1)妊娠とそれに伴う母体の変化 (1)妊娠の概念(2)妊娠の成立(3)妊娠の維持(4)妊娠による母体の変化 2)胎児の発育と胎児付属物 (1)胎児の成長と発達(2)胎児付属物(3)胎児期における臓器の成熟 母子と免疫 1.免疫学概論 2.母体の免疫学特性 3.胎児の免疫学的特性 4.新生児の免疫学的特性	塚本	予習(30分):テキストの妊娠の生理、母子と免疫 に関する該当箇所を読み、分からないことを抽出する。 復習(60分):学んだ内容をノートにまとめる。					
2	母子と感染 1.母子感染概論 2.母子感染各論 婦人科感染症 1.婦人科の炎症性疾患 2.性感染症	塚本	予習(90分):テキストの母子と感染,婦人科感染症の該当箇所を読み、分からないことを抽出する。 復習(90分):学んだ内容の要旨をノートにまとめる。					
3	女性生殖器の疾患と乳房の疾患 1.子宮と付属期の疾患とその検査 1.子宮腫瘍 2. 卵巣腫瘍 3.子宮内膜症 4.検査法 2.乳房の疾患とその検査 1.乳がん 2.乳腺症 3.乳腺炎 4.乳房の検査法	古川	予習(90分):テキストの女性生殖器の疾患と乳房の疾患とその検査の該当する箇所を読み、分からないことを抽出する。 復習(90分):学んだ内容の要旨をA4用紙1枚程度にまとめる。					
4	異常分娩 1)回旋異常の分娩機転 2)分娩誘発・促進の方法 3)VBAC 4)帝王切開術 5)骨盤位分娩	長谷川	予習(90分):テキストの異常分娩(回旋異常の分娩機転、分娩誘発・促進の方法、VBAC、帝王切開術、骨盤位分娩の箇所を読み、分からないことを抽出する。 復習(90分):学んだ内容の要旨をA4用紙1枚程度にまとめる。					
5	異常分娩 6)吸引・鉗子分娩 7)異常出血とその対応、産科ショック、DIC 8)産科麻酔(局所麻酔も含む) 9)胎児機能不全	長谷川	予習(90分):テキストの分娩期の異常・偶発疾患、胎児機能不全の箇所を読み、分からないことを抽出する。 復習(90分):学んだ内容の要旨をA4用紙1枚程度にまとめる。					
6	異常妊娠・合併症妊娠 1)医学的にみたハイリスク妊娠 2)異常妊娠―前期破水・妊娠高血圧症候群・羊水量の異常(過多・過少) FGR、血液型不適合妊娠、異所性妊娠 母子感染症 3)合併症妊娠―心疾患、糸球体腎炎、SLE、気管支喘息、糖尿病 甲状腺合併妊娠	芥川	予習(90分):テキストの異常妊娠・合併症妊娠(異常妊娠、合併症妊娠)の箇所を読み、分からないことを抽出する。 復習(90分):学んだ内容の要旨をA4用紙1枚程度にまとめる。					
7	異常産褥 1)産褥期の異常出血と対応 2)産褥感染小の原因と対応 3)血栓・塞栓症 4)産褥精神障害 5)尿失禁 乳腺症	芥川	予習(90分):異常産褥、産褥期の異常出血と対応、産褥感染小の原因と対応、血栓・塞栓症、産褥精神障害、尿失禁 乳腺症テキストの該当箇所を読み、分からないことを抽出する。 復習(90分):学んだ内容の要旨をノートにまとめる。					

8	女性のライフサイクル各期におこる主な疾患 1.思春期、成熟期の疾患、2.更年期、老年期の疾患	芥川	予習(90分):思春期、成人期、更年期、老年期に起こりやすい異常(ホルモン治療)について テキストの該当箇所を読み、分からないことを抽出する。 復習(90分):学んだ内容の要旨をノートにまとめる。	
【アクティブラーニング】			チェック欄	その他の工夫
①:PBL(課題解決型学習)			○	ビジュランクラウドやDVDを活用する。 Googleフォーム、課題レポートの提出に関してはGoogleドキュメントを活用する。
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)			○	
③:ディスカッション・ディベート				
④:グループワーク			○	
⑤:プレゼンテーション				
⑥:実習・フィールドワーク				
【課題のフィードバック】				
課題レポートに対するフィードバックは、次回の講義に行う。				
【成績の評価方法】				
定期試験:100% 合計:100%				
【生成AI利活用(無)】				
【ルーブリック評価の活用(無)】				
【履修申請上の条件】				
特になし				
【教科書】				
我部山キヨ子編 助産学講座 2 基礎助産学[2] 母子の基礎科学、医学書院、 我部山キヨ子編 助産学講座 6助産診断・技術学Ⅱ [1]妊娠期、医学書院、 我部山キヨ子編 助産学講座 7助産診断・技術学Ⅱ [2]分娩期・産褥期、医学書院 小林康江編 助産師基礎教育テキスト 第 7 版 ハイリスク妊産褥婦・新生児のケア日本看護協会				
【参考書】				
産婦人科診療ガイドライン 産科編2023、日本産婦人科学会 上妻志郎 武谷雄二 プリンシプル産婦人科学1・2、メジカルビュー社 他				
【オープンな教育リソース】				
特になし				
【担当教員の実務経験】				
医師として専門分野において、医学的な知識、技術等を講義する。 間中:助産師としての経験と教員としての経験を生かした講義を行う。				
【オフィスアワー】				
・外部講師の場合は、学務課を通して対応する ・間中 月～金 12:10～13:00				
【教員連絡先】				
・外部講師の場合は、学務課を通して対応する ・間中 tmanaka@g.t-junshin.ac.jp				
【備考】				
助産技術のエビデンスとなる科目であるため 確実に学びを定着させておくことが必須です。 受胎調節実地指導認定に必要な科目としても取り扱っています。				

【成績の評価方法】
定期試験:100% 合計:100%
【生成AI利活用（ 無 ）】
【 ルーブリック評価の活用（ 無 ）】
【履修申請上の条件】
助産の基礎科目を履修していることが望ましい。
【教科書】
我部山キヨ子編 助産学講座 2、基礎助産学（ 2 ）、母子の基礎科学: 医学書院
【参考書】
荒木重雄 浜崎京子編著 不妊治療ガイドンス 第 3 版 医学書院 2003 ほかに印刷教材あり 遺伝カウンセラーとは異なる出生前検査における助産師の役割、助産雑誌、2016. 3医学書院
【オープンな教育リソース】
特になし
【担当教員の実務経験】
清水直樹:医師として専門分野において、医学的な知識、技術等を講義する。 山本志奈子:不妊症看護認定看護師として専門分野において、医学的な知識、技術等を講義する。
【オフィスアワー】
・学務課を通して対応する
【教員連絡先】
・学務課を通して対応する
【備考】
助産学の基礎的知識であり、実践をするにあたり必須科目です。受胎調節実地指導認定に必要な科目としても取り扱っています。

授業科目名	周産期医学Ⅱ（小児科領域）	担当教員名	間中 伴子・清水 直樹・北東 功・勝田 友博・川越 さおり						
		区分 （必修・選択）	必修	選択					
			○						
期間	前期	単位／時間数／形態	1単位／15時間／講義						
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】								
	① 職業人としての倫理観と慈悲の心を身につけ、すべての人の生命の尊厳を守り、権利を擁護できる能力。								
◎	② 助産師として必要な知識と助産診断技術、実践力を身につけ自立した助産ケアができる能力。								
	③ 他職種との連携・協働しながら対象者のニーズに応じた支援ができる能力。								
	④ 地域社会が求める助産師の役割や責務を認識し地域の母子保健の発展に貢献できる能力。								
○	⑤ 助産師として自律し、自ら学び、自己研鑽、真理探究することができる能力。								
【授業の概要】									
周産期小児科領域のケアを行っていくうえで必要な病態生理・治療について学び、疾患に伴う合併症や予防の対応について理解を深める。具体的には、医師より新生児の適応生理（呼吸の適応、循環の適応、体温調節、血液の変化、新生児黄疸、栄養・体液バランスの適応）、新生児仮死と蘇生法、新生児の診査（新生児の分類、新生児仮死と蘇生法、アプガースコア、低酸素性虚血性脳症、新生児の診査、分娩外傷、ハイリスク児、正常経過からの逸脱とおもな疾患（ハイリスク因子、呼吸障害、チアノーゼ、嘔吐と腹部膨満、吐血、下血、けいれん、麻痺、発熱と低体温、心雑音、notdoingwell、さらに母子の免疫、先天感染、先天異常と遺伝性疾患、NICU認定看護師からは、時間経過でみる新生児医療（NICU を中心に）、退院後と乳児健診について教授する。									
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】					ディプロマ・ポリシー				
					①	②	③	④	⑤
1 新生児の適応生理について説明できる。						○			○
2 新生児仮死と蘇生法、新生児の診査について説明できる。						○			○
3 ハイリスク児、正常経過からの逸脱とおもな疾患について説明できる。						○			○
4 母子の免疫、先天感染について説明できる。						○			○
5 先天異常と遺伝性疾患について説明できる。						○			○
6 新生児感染症、乳幼児期の予防接種について説明できる。						○			○
7 時間経過でみる新生児医療（NICU を中心に）、退院後と乳児健診について説明できる。						○			○
【授業計画】									
	授業計画	担当者	授業外学修（予習・復習・課題等）						
1	新生児の適応生理 1)呼吸の適応 2)循環の適応 3)体温調節 4)血液の変化 5)新生児黄疸 6)栄養・体液バランスの適応	北東 功	予習（90分）：授業内容を確認し、予習する。 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 復習（90分）：講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる。						
2	新生児仮死と蘇生法、新生児の診査 1)新生児の分類 2)新生児仮死と蘇生法 3)アプガースコア 4)低酸素性虚血性脳症 5)新生児の診査 6)分娩外傷	北東 功	予習（90分）：授業内容を確認し、予習する。 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 復習（90分）：講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる。						
3	ハイリスク児、正常経過からの逸脱とおもな疾患 1)ハイリスク因子 2)呼吸障害 3)チアノーゼ 4)嘔吐と腹部膨満 5)吐血、下血 6)けいれん 7)麻痺 8)発熱と低体温 9)心雑音 10)notdoingwell	清水 直樹	予習（90分）：授業内容を確認し、予習する。 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 復習（90分）：講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる。						
4	母子の免疫、先天感染 1)免疫とは 2)胎児・新生児の免疫と移行抗体 3)母体の免疫異常と胎児疾患 4)母子間血液型不適合妊娠 5)感染症の基礎知識 6)先天感染（おもに胎内感染）	清水 直樹	予習（90分）：授業内容を確認し、予習する。 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 復習（90分）：講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる。						
5	新生児感染症、乳幼児期の予防接種 1)感染症の診断法と抗体検査 2)新生児感染症の特徴 3)おもな新生児感染症 4)乳幼児の定期予防接種	勝田 友博	予習（90分）：授業内容を確認し、予習する。 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 復習（90分）：講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる。						
6	先天異常と遺伝性疾患 1)先天異常の分類 2)染色体とその異常 3)遺伝子、DNA、染色体 4)遺伝性疾患と遺伝様式 5)出生前診断 6)新生児マススクリーニング	右田 王介	予習（90分）：授業内容を確認し、予習する。 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 復習（90分）：講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる。						

7	時間経過でみる新生児医療 (NICU を中心に)、退院後と乳児健診	川越さおり	予習 (90分):授業内容を確認し、予習する。 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 復習 (90分):講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる。	
8	まとめ	間中 伴子	予習:7回までの授業内容を確認し、疑問があれば質問点をまとめる。(30分) 復習:学んだことを自己ノートにまとめる(60分)	
【アクティブラーニング】			チェック欄	その他の工夫
①:PBL (課題解決型学習)			○	”ビジュランクラウドやDVDを活用する。 Googleフォーム、課題レポートの提出に関してはGoogleドキュメントを活用する。
②:反転授業 (知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)			○	
③:ディスカッション・ディベート				
④:グループワーク			○	
⑤:プレゼンテーション				
⑥:実習・フィールドワーク				
【課題のフィードバック】				
課題レポートに対するフィードバックは、次回の講義に行う。				
【成績の評価方法】				
筆記試験:90% 課題:10% 合計:100%				
【生成AI利活用 (有)】 1)成績評価の対象となるレポートや課題等の作成において、生成 AI が作成した内容(以下、生成 AI の回答文)をそのまま書き写した提出物は、成績評価の対象として認めません。 活用する場合は、その情報が正しいか確認する作業と引用した場合は、引用した内容と引用元 (文献や論文) がわかるように記載してください。 2)生成 AI の回答文を書き写したレポートや論文は、「盗用」、「剽窃(ひょうせつ)」等の不正行為とみなし、懲戒の対象となる可能性があります。 3)課題レポートに関してはGoogle盗用チェック機能を使用します。チェックの結果に10パーセント以上の盗用が認められた場合は、成績評価対象としません。				
【ルーブリック評価の活用 (無)】				
【履修申請上の条件】				
助産の基礎科目を履修していることが望ましい。				
【教科書】				
我部山キヨ子・武谷雄二・藤井知行 編『助産学講座 2基礎助産学[2] 母子の基礎科学』医学書院。 石井邦子・廣間武彦 編『助産学講座 8助産診断・技術学Ⅱ[3]新生児期・乳児期』医学書院。 江藤宏美『助産師基礎教育テキスト 第 6 巻 産褥期のケア 新生児・乳幼児期のケア』日本看護協会。 小林康江『助産師基礎教育テキスト 第 7 巻 ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア』日本看護協会。				
【参考書】				
『母子健康手帳(見本)』母子保健事業団 仁志田博司 編集／高橋尚人・豊島勝昭 編集協力『新生児学入門 第 5 版』医学書院。				
【オープンな教育リソース】				
特になし				
【担当教員の実務経験】				
高江正道:聖マリアンナ医科大学産婦人科学(産科) 教授 医師として専門分野において、医学的な知識、技術等を講義する。 川越さおり:聖マリアンナ医科大学病院 新生児集中ケア認定看護師 NICU 看護師長として専門分野において、医学的な知識、技術等を講義する。				
【オフィスアワー】				
・学務課を通して対応する				
【教員連絡先】				
・学務課を通して対応する				
【備考】				
助産学の基礎的知識であり、実践をするにあたり必須科目です。受胎調節実地指導認定に必要な科目としても取り扱っています。				

授業科目名	母子と家族の心理	担当教員名	益田 早苗			
		区分 (必修・選択)	必修	選択		
			○			
期間	前期	単位／時間数／形態	1単位／15時間／講義			
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】					
	① 職業人としての倫理観と慈悲の心を身につけ、すべての人の生命の尊厳を守り、権利を擁護できる能力。					
◎	② 助産師として必要な知識と助産診断技術、実践力を身につけ自立した助産ケアができる能力。					
	③ 他職種との連携・協働しながら対象者のニーズに応じた支援ができる能力。					
	④ 地域社会が求める助産師の役割や責務を認識し地域の母子保健の発展に貢献できる能力。					
○	⑤ 助産師として自律し、自ら学び、自己研鑽、真理探究することができる能力。					

【授業の概要】

家族関係形成過程、母親役割の移行期の諸課題について現代的な社会状況の中で概観するとともに、様々な課題とその対応の現状について学ぶ。具体的には、助産師をめぐる動向としてわが国の長引く「少子化」「産科医の減少や出産取り扱い施設の閉鎖」など、母子を取り巻く厳しい状況が続いているとや家族規模の縮小化と養育機能の低下など、妊娠・育児を支える家族機能も急速に弱体化しつつある中で母子と家族の心理について焦点を当てた内容を取り上げる。また児童虐待相談件数が激増するなど、育児不安・子どもの虐待を含めた育児をめぐる問題についても焦点を当て教授する。さらには、若者の性・生活・社会環境の変化から派生する性感染症・薬物依存・栄養障害や、在日外国人や性的マイノリティに特有な母子保健の課題、女性へのドメスティック・バイオレンスといった、母子や性と生殖に関する課題が山積する時代にいかに地域社会が求める助産師の役割や責務を認識し地域の母子保健の発展に貢献できるか考察する機会となるように享受する。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー				
	①	②	③	④	⑤
1 女性のライフサイクルとメンタルヘルス・近年の動向について説明することができる。		○			○
2 母性意識の発達と母親役割取得に向けた支援について説明することができる。		○			○
3 親子の愛着形成:母子関係・父子関係について説明することができる。		○			○
4 異常な経過をたどる妊産婦の危機と心理的特性について説明することができる。		○			○
5 異常な経過をたどる妊産婦と家族への心理社会的支援について説明することができる。		○			○
6 マタニティーブルーズ・産後うつ病が母子と家族に与える影響について説明することができる。		○			○
7 育児ストレス・児童虐待における母子関係と家族について説明することができる。		○			○
8 血縁の無い親子関係・多様な家族への支援について説明することができる。		○			○

【授業計画】			
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	女性のライフサイクルとメンタルヘルス・近年の動向	益田 早苗	予習(30分):女性のライフサイクルとメンタルヘルス・近年の動向について調べ予習する。 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 復習(60分):講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる。
2	母性意識の発達と母親役割取得に向けた支援	益田 早苗	予習(90分):母性意識の発達と母親役割取得に向けた支援について調べ予習する。 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 復習(90分):講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる。
3	親子の愛着形成：母子関係・父子関係	益田 早苗	予習(90分):親子の愛着形成:母子関係・父子関係について調べ予習する。 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 復習(90分):講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる。
4	異常な経過をたどる妊産婦の危機と心理的特性 (流早産・死産・児の異常・低出生体重児・不妊症)	益田 早苗	予習(90分):異常な経過をたどる妊産婦の危機と心理的特性について調べ予習する。 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 復習(90分):講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる。
5	異常な経過をたどる妊産婦と家族への心理社会的支援	益田 早苗	予習(90分):異常な経過をたどる妊産婦と家族への心理社会的支援について調べ予習する。 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 復習(90分):講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる。
6	マタニティーブルーズ・産後うつ病が母子と家族に与える影響	益田 早苗	予習(90分):マタニティーブルーズ・産後うつ病が母子と家族に与える影響について調べ予習する。 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 復習(90分):講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる。
7	育児ストレス・児童虐待における母子関係と家族 (心理・社会的背景の特性：母子と家族への支援)	益田 早苗	予習(90分):育児ストレス・児童虐待における母子関係と家族について調べ予習する。 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 復習(90分):講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる。
8	血縁の無い親子関係・多様な家族への支援 (生殖補助医療・ステップファミリー・里親・特別養子縁組等)	益田 早苗	予習(90分):血縁の無い親子関係・多様な家族への支援について調べ予習する。 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 復習(90分):講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる。

【アクティブラーニング】		チェック欄	その他の工夫
①:PBL（課題解決型学習）			”ビジュランクラウドやDVDを活用する。 Googleフォーム、課題レポートの提出に関してはGoogleドキュメントを活用する。□ □ □
②:反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）		○	
③:ディスカッション・ディベート		○	
④:グループワーク			
⑤:プレゼンテーション			
⑥:実習・フィールドワーク			

【課題のフィードバック】

課題レポートに対するフィードバックは、次の講義に行う。

【成績の評価方法】 レポート:30% 最終試験:70% 合計:100% 【生成AI活用（ 有 ）】 1)成績評価の対象となるレポートや課題等の作成において、生成 AI が作成した内容(以下、生成 AI の回答文)をそのまま書き写した提出物は、成績評価の対象として認めません。 活用する場合は、その情報が正しいか確認する作業と引用した場合は、引用した内容と引用元(文献や論文)がわかるように記載してください。 2)生成 AI の回答文を書き写したレポートや論文は、「盗用」、「剽窃(ひょうせつ)」等の不正行為とみなし、懲戒の対象となる可能性があります。 3)課題レポートに関してはGoogle盗用チェック機能を使用します。チェックの結果に10パーセント以上の盗用が認められた場合は、成績評価対象としません。 【ループリック評価の活用（ 無 ）】
【履修申請上の条件】 助産の基礎科目を履修していることが望ましい。
【教科書】 我部山キヨ子編:助産学講座 4基礎助産学[4]母子の心理社会学、医学書院.
【参考書】 カミングス他著、菅原ますみ監訳:発達精神病理学 子どもの精神病理の発達と家族関係、ミネルボア書房、2006. 竹内正人編著:赤ちゃんの死を前にして、中央法規、2014. 山崎あけみ、原礼子:家族看護学 改定 2 版、南江堂、2015. 新道幸恵、和田サヨ子編:母性の心理的側面と看護ケア、医学書院.
【オープンな教育リソース】 特になし
【担当教員の実務経験】 助産師であり、病院勤務ののち助産師教育に長年かかわってきた。また、社会福祉士学博士として要支援組の活動を行うNPO法人での活動を通して得た経験を生かした講義を行う。
【オフィスアワー】 ・学務課を通して対応する
【教員連絡先】 ・学務課を通して対応する
【備考】 周産期の心理的問題を助産師がどう診断し、どうケアしていくのか実践につなげられるような主体的な学びを期待しています。

授業科目名	生命倫理学	担当教員名	間中 伴子		
		区分 (必修・選択)	必修	選択	
			○		
期間	前期	単位／時間数／形態	1単位／15時間／講義		
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】				
◎	① 職業人としての倫理観と慈悲の心を身につけ、すべての人の生命の尊厳を守り、権利を擁護できる能力。				
	② 助産師として必要な知識と助産診断技術、実践力を身につけ自立した助産ケアができる能力。				
	③ 他職種との連携・協働しながら対象者のニーズに応じた支援ができる能力。				
	④ 地域社会が求める助産師の役割や責務を認識し地域の母子保健の発展に貢献できる能力。				
○	⑤ 助産師として自律し、自ら学び、自己研鑽、真理探究することができる能力。				

【授業の概要】

医学と社会の高度化により医療従事者が直面する倫理的課題は、個人的な倫理観や経験だけでは対応が難しくなった。特に助産師は解決困難な倫理的課題に遭遇する機会が多い。講義では生命倫理学の理論と技術を学び、現場における倫理分析能力を介して助産師が専門職として産科医療に貢献することをめざす。また、倫理的課題が集中する先端医学に関わる知識と妊産婦や家族への対応技術(遺伝カウンセリングなど)の学びを踏まえ、助産師の専門性を高めることを目的とする。具体的には、生命倫理、倫理原則、ケアの倫理、倫理的な助産実践を支える諸規定、ICMによる助産師の国際倫理綱領、日本助産師会による助産師の倫理綱領、日本助産師会が示す「倫理的感応力」、助産実践にかかわる倫理的課題と意思決定支援、周産期医療における倫理的課題とその特徴、倫理的課題に対する助産師による意思決定支援について学ぶ。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー				
	①	②	③	④	⑤
1 わが国の民族・催事から生命倫理について記述することができる。	○				○
2 出生前検査に伴う生命倫理について記述することができる	○				○
3 着床前診断と生命倫理について記述することができる	○				○
4 新生児スクリーニングと生命倫理について記述することができる	○				○
5 若年がんと生命倫理について記述することができる	○				○
6 ハイリスク妊産婦の倫理とケアの実際について記述することができる	○				○

【授業計画】			
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	わが国の民族・催事から生命倫理を考える	間中伴子	予習(30分):シラバスあるいは授業で示される次の授業内容を確認し、予習する。 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 復習(60分):講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる。
2	倫理的課題に直面する方への意思決定支援	間中伴子	予習(90分):シラバスあるいは授業で示される次の授業内容を確認し、予習する。 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 復習(90分):講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる。
3	出生前検査に伴う生命倫理①	間中伴子	予習(90分):シラバスあるいは授業で示される次の授業内容を確認し、予習する。 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 復習(90分):講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる。
4	出生前検査に伴う生命倫理②	間中伴子	予習(90分):シラバスあるいは授業で示される次の授業内容を確認し、予習する。 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 復習(90分):講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる。
5	着床前診断と生命倫理	間中伴子	予習(90分):シラバスあるいは授業で示される次の授業内容を確認し、予習する。 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 復習(90分):講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる。
6	新生児スクリーニングと生命倫理	間中伴子	予習(90分):シラバスあるいは授業で示される次の授業内容を確認し、予習する。 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 復習(90分):講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる。
7	若年がんと生命倫理	間中伴子	予習(90分):シラバスあるいは授業で示される次の授業内容を確認し、予習する。 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 復習(90分):講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる。
8	ハイリスク妊産婦の倫理とケアの実際	間中伴子	予習(90分):シラバスあるいは授業で示される次の授業内容を確認し、予習する。 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 復習(90分):講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる。

【アクティブラーニング】		チェック欄	その他の工夫
①:PBL（課題解決型学習）		○	ビジュアルクラウドやDVDを活用する。 Googleフォーム、課題レポートの提出に関してはGoogleドキュメントを活用する。
②:反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）		○	
③:ディスカッション・ディベート			
④:グループワーク			
⑤:プレゼンテーション			
⑥:実習・フィールドワーク			

【課題のフィードバック】

課題レポートに対するフィードバックは、次の講義に行う。

【成績の評価方法】 定期試験:50％、課題レポート50％ 合計:100％ 【生成AI利活用（ 有 ）】 1)成績評価の対象となるレポートや課題等の作成において、生成 AI が作成した内容(以下、生成 AI の回答文)をそのまま書き写した提出物は、成績評価の対象として認めません。 活用する場合は、その情報が正しいか確認する作業と引用した場合は、引用した内容と引用元(文献や論文)がわかるように記載してください。 2)生成 AI の回答文を書き写したレポートや論文は、「盗用」、「剽窃(ひょうせつ)」等の不正行為とみなし、懲戒の対象となる可能性があります。 3)課題レポートに関してはGoogle盗用チェック機能を使用します。チェックの結果に10パーセント以上の盗用が認められた場合は、成績評価対象としません。 【ループリック評価の活用（ 無 ）】
【履修申請上の条件】 助産の基礎科目を履修していることが望ましい。
【教科書】 我部山キヨ子編 助産学講座 1助産学概論 医学書院
【参考書】 見藤隆子他 看護職者のための政策課程入門第 2 版 日本看護協会出版会 高田利広他編:助産師業務要覧、日本看護協会出版会 母子保健研究会編集:わが国の母子保健 厚生労働省児童家庭局母子保健課:母子保健の主たる統計 看護行政研究会監修:看護六法、新日本法規出版会
【オープンな教育リソース】 特になし
【担当教員の実務経験】 助産師として臨床では、大学病院、助産所、保健所、院内助産に勤務した。また、大学院助産師教育、看護系大学母性看護学、看護倫理の教育に携わった経験を生かした講義を行う。□
【オフィスアワー】 月～金 12:10～13:00
【教員連絡先】 メールアドレス tmanaka@g.t-junshin.ac.jp
【備考】 助産に関連する生命倫理の特性を理解し、倫理観および倫理的態度を学ぶための意識を日常的に高く持つことで助産師として持つべき倫理感を高められるよう努力しましょう。

別科助産専攻科		2025(令和7)年度							
授業科目名	助産診断・技術学Ⅰ（妊娠期）	担当教員名	間中 伴子・窪田 裕子・西脇 裕子・古川 佳代子						
		区分 （必修・選択）	必修	選択					
			○						
期間	前期	単位／時間数／形態	1単位／15時間／講義						
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】								
	① 職業人としての倫理観と慈悲の心を身につけ、すべての人の生命の尊厳を守り、権利を擁護できる能力。								
◎	② 助産師として必要な知識と助産診断技術、実践力を身につけ自立した助産ケアができる能力。								
	③ 他職種との連携・協働しながら対象者のニーズに応じた支援ができる能力。								
	④ 地域社会が求める助産師の役割や責務を認識し地域の母子保健の発展に貢献できる能力。								
○	⑤ 助産師として自律し、自ら学び、自己研鑽、真理探究することができる能力。								
【授業の概要】									
妊娠期の母体の生理的機能を理解し、妊婦と胎児の正常と異常の経過を判断するために必要な基本的知識と妊婦健康診査、保健指導の方法を学習する。具体的には、妊娠期の助産診断（妊娠成立、妊娠時期、妊婦健康診査、母体の健康状態、胎児の健康状態診断、妊婦の健康生活）とマイナートラブルの診断と対処、診察技術について学ぶ。また、妊娠期のケアでは、母体の健康状態・健康生活に関するケアとして食事行動にかかわるケア、排泄行動にかかわるケア、睡眠・休息行動にかかわるケア、動作・運動にかかわるケア、清潔行動にかかわるケア、心理・社会的側面に関するケアとして親役割の獲得・家族役割調整、社会資源の活用・就労に伴う支援、正常からの逸脱に対する助産診断とケアについて学ぶ。									
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】						ディプロマ・ポリシー			
					①	②	③	④	⑤
1 妊婦・胎児の健康状態の診断に必要な観察内容と方法を述べることができる。						○			○
2 健康な妊娠生活への支援に必要な知識・方法を説明できる。						○			○
3 親役割獲得・家族役割調整への支援、必要な知識・方法を説明できる。						○			○
【授業計画】									
	授業計画		担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)					
1	妊娠期の助産診断 1)妊娠成立の診断 2)妊娠時期の診断 3)妊婦健康診査		窪田 裕子	予習(90分):シラバスあるいは授業で示される次の授業内容を確認し、予習する。 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 復習(90分):講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる。					
2	4)母体の健康状態に関する診断 5)胎児の健康状態に関する診断 6)妊婦の健康生活に関する診断		窪田 裕子	予習(90分):シラバスあるいは授業で示される次の授業内容を確認し、予習する。 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 復習(90分):講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる。					
3	7)マイナートラブルの診断と対処 8)診察技術:妊娠期のイグザミネーション他 (レオポルド触診法・胎児心音聴取、腹囲・子宮底測定他)		窪田 裕子	予習(90分):シラバスあるいは授業で示される次の授業内容を確認し、予習する。 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 復習(90分):講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる。					
4	妊娠期のケア 1)母体の健康状態・健康生活に関するケア (1)食事行動にかかわるケア (2)排泄行動にかかわるケア (3)睡眠・休息行動にかかわるケア (4)動作・運動にかかわるケア (5)清潔行動にかかわるケア		窪田 裕子	予習(90分):シラバスあるいは授業で示される次の授業内容を確認し、予習する。 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 復習(90分):講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる。					
5	2)心理・社会的側面に関するケア (1)親役割の獲得・家族役割調整 (2)社会資源の活用・就労に伴う支援		窪田 裕子	予習(90分):シラバスあるいは授業で示される次の授業内容を確認し、予習する。 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 復習(90分):講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる。					
6	正常からの逸脱に対する助産診断とケア 1)ハイリスク妊娠 (1)妊娠継続期間の逸脱 ① 流産・早産② 過期妊娠 (2)妊娠に伴う身体的適応からの逸脱 ① 妊娠悪阻② 貧血 ③ 妊娠高血圧症候群④ 糖尿病		間中 伴子	予習(90分):シラバスあるいは授業で示される次の授業内容を確認し、予習する。 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 復習(90分):講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる。					
7	(3)胎児発育の逸脱 ① 多胎② FGR (4)胎児付属物の逸脱 ① 前置胎盤② 羊水量の異常		間中 伴子	予習(90分):シラバスあるいは授業で示される次の授業内容を確認し、予習する。 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 復習(90分):講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる。					
8	産科超音波技術		古川佳代子	予習(30分):シラバスあるいは授業で示される次の授業内容を確認し、予習する。 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 復習(60分):講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる。					
【アクティブラーニング】			チェック欄	その他の工夫					
①:PBL（課題解決型学習）				ビジュアルクラウドやDVDを活用する。 Googleフォーム、課題レポートの提出に関してはGoogleドキュメントを活用する。					
②:反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）			○						
③:ディスカッション・ディベート			○						
④:グループワーク			○						
⑤:プレゼンテーション			○						
⑥:実習・フィールドワーク									
【課題のフィードバック】									
・質問や課題レポートに対するフィードバックは、次の講義に行う。									

【成績の評価方法】 定期試験:80%、課題20% 合計:100% 【生成AI利活用（有）】 1)成績評価の対象となるレポートや課題等の作成において、生成 AI が作成した内容(以下、生成 AI の回答文)をそのまま書き写した提出物は、成績評価の対象として認めません。 活用する場合は、その情報が正しいか確認する作業と引用した場合は、引用した内容と引用元(文献や論文)がわかるように記載してください。 2)生成 AI の回答文を書き写したレポートや論文は、「盗用」、「剽窃(ひょうせつ)」等の不正行為とみなし、懲戒の対象となる可能性があります。 3)課題レポートに関してはGoogle盗用チェック機能を使用します。チェックの結果に10パーセント以上の盗用が認められた場合は、成績評価対象としません。 【ルーブリック評価の活用（有）】 課題のルーブリック評価表は、授業の中で提示します。
【履修申請上の条件】 特になし
【教科書】 我部山キヨ子編:助産学講座3・6、医学書院。 森恵美:助産師基礎教育テキスト第 4 巻 妊娠期の診断とケア、日本看護協会。 遠藤俊子:助産師教育テキスト第 7 巻 ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア、日本看護協会。北川眞理子、内山和美編集:今日の助産 改訂第 4 版、南江堂。 平澤美恵子:写真でわかる助産技術アドバンス、インターメディカ。
【参考書】 日本産婦人科学会:産婦人科診療ガイドライン2020 厚生労働科研究院:研究班 快適で安全な妊娠出産のためのガイドライン2013上妻志郎、武谷雄二:プリンシプル産科婦人科学 2産科編 第 3 版 我部山キヨ子、大石時子編:助産師のためのフィジカルイグザミネーション第 2 版、医学書院。 日本助産診断・実践研究会編:実践マタニティ診断第 4 版、医学書院。病気がみえる10 産科、Medic Media。 我部山キヨ子編:臨床助産師必携、医学書院。 食品80Kcal ブック / 毎日の食事カロリーガイドブック、女子栄養大学出版部。 毎日の食事のカロリーガイド 3 版、女子栄養大学出版部。 吉澤豊子、鈴木幸子:マタニティアセスメントガイド、真興交易。
【オープンな教育リソース】 特になし
【担当教員の実務経験】 間中:助産師として臨床では、大学病院、助産所、保健所、院内助産に勤務した。 また、大学院助産師教育、看護系大学母性看護学、看護倫理の教育に携わった経験を生かした講義を行う。 窪田:助産師として病院に勤務したのち、長年、助産師教育に携わった経験を生かした教育を行う。 西脇:助産師として、総合病院外来・病棟、助産院での勤務、地域母子保健活動経験をもとに教育を行う。
【オフィスアワー】 間中、窪田、西脇 :月～金 12:10～13:00
【教員連絡先】 間中:tmanaka@g.t-junshin.ac.jp 窪田:yukubota@g.t-junshin.ac.jp 西脇:yunishiwaki@g.t-junshin.ac.jp
【備考】 助産技術の実技については、ゼミ室や実習室で根拠・手順・留意点を踏まえ演習します。技術練習の際は準備から後片付けまでを各人が責任をもって行います。 助産技術は身体侵襲が大きく、苦痛を伴うため、安全第 1 で、正確な知識と根拠に基づいた技術を習得するため練習に励みましょう。

授業科目名	助産診断・技術学Ⅱ（分娩期）	担当教員名	間中 伴子、窪田 裕子、西脇 裕子		
		区分 （必修・選択）	必修	選択	
			○		
期間	前期	単位／時間数／形態	2単位／30時間／講義		
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】				
	① 職業人としての倫理観と慈悲の心を身につけ、すべての人の生命の尊厳を守り、権利を擁護できる能力。				
◎	② 助産師として必要な知識と助産診断技術、実践力を身につけ自立した助産ケアができる能力。				
	③ 他職種との連携・協働しながら対象者のニーズに応じた支援ができる能力。				
	④ 地域社会が求める助産師の役割や責務を認識し地域の母子保健の発展に貢献できる能力。				
○	⑤ 助産師として自律し、自ら学び、自己研鑽、真理探究することができる能力。				

【授業の概要】

分娩期の母体の生理的機能を理解し、産婦の正常経過と異常を診断するために必要な基本的知識を学習する。具体的には、分娩の定義と種類、分娩 3 要素（産道、胎児およびその付属物、娩出力）、分娩 3 要素と分娩の機序、フリードマン曲線を用いた分娩予測、分娩が母児に及ぼす影響・産婦の心理と家族の心理、分娩第 1 期の正常と異常、診断とケア、分娩進行に伴う正常経過逸脱時の診断・ケアとその対応、分娩第 2 期の正常と異常、診断とケア、異常への対応、分娩第 3・4 期の正常と異常、診断とケア、異常への対応、出生直後の新生児の診断・アセスメントとケア、さらには分娩時に関する法的責務・必要書類、異常の移行時における助産師の役割まで助産師必須の知識を教授する。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー				
	①	②	③	④	⑤
1 分娩経過、母児の状態の正常・異常の診断に必要な技術、ケアを説明できる		○			○
2 分娩各期の母児および家族に必要なケアを述べることができる。		○			○
3 出生直後の児のケアに必要な知識・技術を説明できる。		○			○
4 分娩介助実施に必要な法的責務・必要書類に説明ついてきる。		○			○

【授業計画】			
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	分娩の定義と種類 分娩 3 要素（産道、胎児およびその付属物、娩出力）	窪田 裕子	予習(90分):分娩 3 要素（産道、胎児およびその付属物、娩出力）について予習する。 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 復習(90分):講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる。
2	分娩 3 要素と分娩の機序 （陣痛発来機序、軟産道の開大機序、破水、胎児の産道通過機序、胎盤の剥離と娩出、止血機序）	窪田 裕子	予習(90分):陣痛発来機序、軟産道の開大機序、破水、胎児の産道通過機序、胎盤の剥離と娩出、止血機序について予習する。 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 復習(90分):講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる。
3	分娩中における胎児の健康状態（胎児心拍数モニタリング）	窪田 裕子	予習(90分):分娩中における胎児の健康状態（胎児心拍数モニタリング）について予習する。 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 復習(90分):講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる。
4	フリードマン曲線を用いた分娩予測	窪田 裕子	予習(90分):フリードマン曲線を用いた分娩予測について予習する。 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 復習(90分):講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる。
5	分娩が母児に及ぼす影響・産婦の心理と家族の心理	間中 伴子 窪田 裕子	予習(90分):分娩が母児に及ぼす影響・産婦の心理と家族の心理について予習する。 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 復習(90分):講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる。
6	分娩第 1 期の正常と異常、診断とケア （入院前・入院時の診断・アセスメントケア、破水の診断とケア）	間中 伴子 窪田 裕子	予習(90分):分娩第 1 期の正常と異常、診断とケア（入院前・入院時の診断・アセスメントケア、破水の診断とケア）について予習する。 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 復習(90分):講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる。
7	分娩第 1 期の正常と異常、診断とケア （分娩第 1 期の過ごし方、ケアの実際）	間中 伴子 窪田 裕子	予習(90分):分娩第 1 期の正常と異常、診断とケアについて予習する。 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 復習(90分):講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる。
8	分娩進行に伴う正常経過逸脱時の診断・ケアとその対応 （微弱・過強陣痛、CPD、回S旋異常、遷延分娩、誘発・促進、無痛分娩）	間中 伴子 窪田 裕子	予習(90分):分娩進行に伴う正常経過逸脱時の診断・ケアとその対応について予習する。 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 復習(90分):講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる。
9	分娩第 2 期の正常と異常、診断とケア、異常への対応	間中 伴子 窪田 裕子	予習(90分):分娩第 2 期の正常と異常、診断とケア、異常への対応について予習する。 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 復習(90分):講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる。
10	分娩第 3・4 期の正常と異常、診断とケア、異常への対応 （胎盤娩出・精査、産道損傷、出血）	間中 伴子 窪田 裕子	予習(90分):分娩第 3・4 期の正常と異常、診断とケア、異常への対応について調べ、予習する。疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 復習(90分):講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる。

11	出生直後の新生児の診断・アセスメントとケア (新生児蘇生、呼吸の助成、保温、全身観察)	窪田 裕子	予習(90分):出生直後の新生児の診断・アセスメントとケアについて予習する。 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 復習(90分):講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる。	
12	分娩時に関する法的責務・必要書類	間中 伴子	予習(90分):分娩時に関する法的責務・必要書類について調べ予習する。 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 復習(90分):講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる。	
13	異常の移行時における助産師の役割 nonreassuring-pattern 時の対応とケア 異常時の診断・アセスメントとケア (急速遂娩時のケア、緊急帝王切開時のケア、異常出血時のケア)	間中 伴子 窪田 裕子 西脇 裕子	予習(180分):異常の移行時における助産師の役割について予習する。 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 復習(180分):講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる。	
14				
15	事前配布された模擬事例を用いて、助産診断を元に分娩経過、母児の状態アセスメントを行う。 アセスメントに基づいた助産ケアについてディスカッションする。	間中 伴子 窪田 裕子 西脇 裕子	予習(90分):事前に配布された模擬事例について助産診断、分娩経過、母児の状態のアセスメントを行い説明ができるように予習しておく。 第14回までの講義内容で疑問があれば質問や確認できるようまとめておく。 復習(90分):科目全体の重要な個所をノートにまとめる。	
【アクティブラーニング】			チェック欄	その他の工夫
①:PBL(課題解決型学習)				ビジュアルクラウドやDVDを活用する。 Googleフォーム、課題レポートの提出に関してはGoogleドキュメントを活用する。
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)			○	
③:ディスカッション・ディベート			○	
④:グループワーク			○	
⑤:プレゼンテーション				
⑥:実習・フィールドワーク				
【課題のフィードバック】				
・課題レポートに対するフィードバックは、次の講義に行う。				
【成績の評価方法】				
実技試験:100%(技術チェック 30% 技術試験 70%)で評価する。 再試験における実技試験不合格者は「助産学実習」の履修は不可				
【生成AI利活用(無)】				
【ルーブリック評価の活用(有)】 ルーブリック評価表は、授業の中で提示します。				
【履修申請上の条件】				
特になし				
【教科書】				
我部山キヨ子編 助産学講座 7助産診断・技術学Ⅱ[2]分娩期・産褥期 医学書院 我部山キヨ子編 助産学講座 8助産診断・技術学Ⅱ[3]新生児期・乳幼児期 医学書院 町浦美智子編 助産師基礎教育テキスト 2024年版 第5巻 分娩期の診断とケア 小林康江編 助産師基礎教育テキスト第 7 巻 日本看護協会出版会 北川真理子、内山和美編 今日の助産 南江堂 進純郎、堀内成子 正常分娩の助産術 医学書院 平澤美恵子 写真でわかる助産技術アドバンス インターメディア 藤森敬也 胎児心拍数モニタリング講座 メディカ出版 新生児蘇生法テキスト メジカルビュー社				
【参考書】				
レズリー・ページ(2002)新助産学 メディカ出版／産婦人科診療ガイドライン産科編2020、日本産婦人科学会／進 純郎(2002)周産期の臨床手技106 ペリネイタルケア新春増刊号 メディカ出版 進 純郎(2005)助産師必携会陰保護技術 メディカ出版／岩田塔子(2007)体位別フリースタイル分娩介助法 メディカ出版／戸田律子(2006)WHO の59ヵ条お産のケア実践ガイド 農文協 飯田俊彦(2006)スキルアップ分娩介助 メディカ出版／清水保(2009)よくわかる分娩とその管理 改訂版 2 版 永井書店／我部山キヨ子編 臨床助産師必携 医学書院 プリンシプル産婦人科学 2 新版助産師業務要覧 実践編／病気がみえるvol.10産科／母性の心理社会的側面と看護ケア／助産師のためのフィジカルイグザミネーション 他				
【オープンな教育リソース】				
特になし				
【担当教員の実務経験】				
間中:助産師として臨床では、大学病院、助産所、保健所、院内助産に勤務した。また、大学院助産師教育、看護系大学母性看護学、看護倫理の教育に携わった経験を生かした講義を行う。 窪田:助産師として病院に勤務したのち、長年、助産師教育に携わった経験を生かした教育を行う。 西脇:助産師として、総合病院外来・病棟、助産院での勤務、地域母子保健活動経験をもとに教育を行う。				
【オフィスアワー】				
間中、窪田、西脇 :月～金 12:10～13:00				
【教員連絡先】				
間中:tmanaka@g.t-junshin.ac.jp 窪田:yukubota@g.t-junshin.ac.jp 西脇:yunishiwaki@g.t-junshin.ac.jp				
【備考】				
助産技術の実技については、ゼミ室や実習室で根拠・手順・留意点を踏まえ演習します。演習も技術練習の際は準備から後片付けまでを各人が責任をもって行います。 助産技術は身体侵襲が大きく、苦痛を伴うため、安全第 1 で、正確な知識と根拠に基づいた技術を習得するため練習に励みましょう。				

別科助産専攻科		2025(令和7)年度				
授業科目名	助産診断・技術学Ⅲ(産褥期・新生児期)	担当教員名	間中 伴子、窪田 裕子、西脇 裕子・星野沙織			
		区分 (必修・選択)	必修	選択		
			○			
期間	前期	単位／時間数／形態	1単位／15時間／講義			
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】					
	① 職業人としての倫理観と慈悲の心を身につけ、すべての人の生命の尊厳を守り、権利を擁護できる能力。					
◎	② 助産師として必要な知識と助産診断技術、実践力を身につけ自立した助産ケアができる能力。					
	③ 他職種との連携・協働しながら対象者のニーズに応じた支援ができる能力。					
	④ 地域社会が求める助産師の役割や責務を認識し地域の母子保健の発展に貢献できる能力。					
○	⑤ 助産師として自律し、自ら学び、自己研鑽、真理探究することができる能力。					
【授業の概要】						
褥婦の身体的、心理的、社会的側面から産褥期に必要な援助をアセスメントできる知識を学ぶ。さらに知識を統合し助産診断に必要な技術を修得できる。また、新生児の生理的機能、成長発達過程を理解し、助産診断できるように学習する。ハイリスクの褥婦と新生児へのアセスメントとケアについても学習する。具体的には、産褥期および新生児期の身体的変化とフィジカルアセスメントから産褥期の支援・指導、産褥期の異常の診断とケア、特殊な状況にある褥婦のケア(ペリネイタルロス、健康に障がいがある児をもつ褥婦へのケア)、産後の家族計画の概要と実際、母乳育児支援(母乳育児確立の診断・アセスメントとケア)と実際、双子のケア(入院中のケア・退院後のケア・母乳育児支援)について学ぶ。						
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】					ディプロマ・ポリシー	
					①	②
1 産褥期・乳幼児期に必要な助産診断						○
2 産褥期・乳幼児期に必要な技術を習得し、ケアが実践できる。						○
3 東洋医学、アロママッサージ方法を説明することができる。						○
【授業計画】						
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)			
1	産褥期の身体的変化とフィジカルアセスメント(退行性変化/進行性変化)	西脇 裕子	予習(60分):シラバスあるいは授業で示される次の授業内容を確認し、予習する。 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 復習(60分):講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる。			
2	産褥期の支援・指導 産褥期の異常の診断とケア 特殊な状況にある褥婦のケア (1)ペリネイタルロス (2)健康に障がいがある児をもつ褥婦へのケア	窪田 裕子	予習(120):シラバスあるいは授業で示される次の授業内容を確認し、予習する。 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 復習(60分):講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる。			
3	新生児のケア,双子のケア(入院中のケア・退院後のケア・母乳育児支援)	窪田 裕子	予習(120):シラバスあるいは授業で示される次の授業内容を確認し、予習する。 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 復習(60分):講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる。			
4	母乳育児支援(母乳育児確立の診断・アセスメントとケア) 母乳育児支援の実際 (1)異常状態、合併症の予防とケア (2)母乳栄養が継続できるためのケア	星野沙織	予習(120):シラバスあるいは授業で示される次の授業内容を確認し、予習する。 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 復習(60分):講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる。			
5	東洋医学「鍼灸」を取り入れた乳房ケアについて 経絡、経穴概論 指圧、マッサージ理論と手技	太田和世	予習(180分):シラバスあるいは授業で示される次の授業内容を確認し、予習する。 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 復習(180分):講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる。			
6						
7	アロママッサージ ベビーマッサージ	今村 理恵子	予習(180分):シラバスあるいは授業で示される次の授業内容を確認し、予習する。 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 復習(180分):講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる。			
8						
【アクティブラーニング】			チェック欄	その他の工夫		
①:PBL(課題解決型学習)			○	ビジュアルクラウドやDVDを活用する。 Googleフォーム、課題レポートの提出に関してはGoogleドキュメントを活用する。		
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)			○			
③:ディスカッション・ディベート			○			
④:グループワーク			○			
⑤:プレゼンテーション						
⑥:実習・フィールドワーク						
【課題のフィードバック】						
・課題レポートに対するフィードバックは、次の講義に行う。						
【成績の評価方法】						
定期試験:80%、課題20% 合計:100%						
【生成AI利活用(有)】						
1)成績評価の対象となるレポートや課題等の作成において、生成 AI が作成した内容(以下、生成 AI の回答文)をそのまま書き写した提出物は、成績評価の対象として認めません。 活用する場合は、その情報が正しいか確認する作業と引用した場合は、引用した内容と引用元(文献や論文)がわかるように記載してください。						
2)生成 AI の回答文を書き写したレポートや論文は、「盗用」、「剽窃(ひょうせつ)」等の不正行為とみなし、懲戒の対象となる可能性があります。						
3)課題レポートに関してはGoogle盗用チェック機能を使用します。チェックの結果に10パーセント以上の盗用が認められた場合は、成績評価対象としません。						
【ルーブリック評価の活用(無)】						

【履修申請上の条件】
特になし
【教科書】
我部山キヨ子編 助産学講座3・7・8 医学書院 UNICEF／WHO 母乳育児支援ガイド スタンダード 医学書院 水野克己、水野紀子 母乳育児支援講座 南山堂 北川真理子 内山和美編集 今日の助産 南江堂
【参考書】
UNICEF／WHO 母乳育児支援ガイド アドバンスコース 医学書院吉澤豊子 鈴木幸子 マタニティアセスメントガイド 真興交易 我部山キヨ子編 臨床助産師必携 医学書院 その他 授業内で紹介
【オープンな教育リソース】
特になし
【担当教員の実務経験】
間中:助産師として臨床では、大学病院、助産所、保健所、院内助産に勤務した。また、大学院助産師教育、看護系大学母性看護学、看護倫理の教育に携わった経験を生かした講義を行う。 窪田:助産師として病院に勤務したのち、長年、助産師教育に携わった経験を生かした教育を行う。 西脇:助産師として、総合病院外来・病棟、助産院での勤務、地域母子保健活動経験をもとに教育を行う。 太田和世 :大学病院で勤務したのち堤式乳房マッサージ法認定取得。東京都内で助産院(母乳相談)を主宰している経験を生かした講義を行う。 今村 理恵子:福生市森田助産院勤務。地域で約30年間助産師として活動してきた経験を生かした講義を行う。
【オフィスアワー】
間中、窪田、西脇 :月～金 12:10～13:00
【教員連絡先】
間中:tmanaka@g.t-junshin.ac.jp 窪田:yukubota@g.t-junshin.ac.jp 西脇:yunishiwaki@g.t-junshin.ac.jp 太田:学務課を通して連絡 今村:学務課を通して連絡
【備考】
助産技術の実技については、ゼミ室や実習室で根拠・手順・留意点を踏まえ演習します。技術練習の際は準備から後片付けまでを各人が責任をもって行います。 助産技術は身体侵襲が大きく、苦痛を伴うため、安全第 1 で、正確な知識と根拠に基づいた技術を習得するため練習に励みましょう。

別科助産専攻科		2025(令和7)年度								
授業科目名	ハイリスク助産診断・技術学	担当教員名	間中 伴子・窪田 裕子・西脇 裕子							
		区分 (必修・選択)	必修	選択						
			○							
開講期	前期	単位／時間数／形態	2単位／30時間／講義							
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】									
	① 職業人としての倫理観と慈悲の心を身につけ、すべての人の生命の尊厳を守り、権利を擁護できる能力。									
◎	② 助産師として必要な知識と助産診断技術、実践力を身につけ自立した助産ケアができる能力。									
	③ 他職種との連携・協働しながら対象者のニーズに応じた支援ができる能力。									
	④ 地域社会が求める助産師の役割や責務を認識し地域の母子保健の発展に貢献できる能力。									
○	⑤ 助産師として自律し、自ら学び、自己研鑽、真理探究することができる能力。									
【授業の概要】										
妊産褥婦および胎児・新生児の病態生理、周産期各期の異常(妊娠悪阻や流早産、子宮外妊娠、妊娠高血圧症候群、妊娠糖尿病、分娩遷延、産科ショック、緊急処置、子宮復古不全、産後うつ、低出生体重児や双胎児など)、産科麻酔について理解する。また、ハイリスク児の病態生理や性機能発達、精神的問題を有している妊産褥婦の状態についても理解する。具体的には、異常妊婦、妊娠持続期間の異常妊婦、分娩時の異常および妊娠持続期間の異常妊婦、胎児及び新生児、付属物の異常、産科救急における助産ケア、分娩後大出血・肩甲難産の模擬事例を用いてアセスメントと支援についてGWでのディスカッションを行う。これらはハイリスク事例の代表事例ともいえるものであり、助産師として最低限身につけておかなければならない必須の知識と助産診断技術である。										
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】						ディプロマ・ポリシー				
						①	②	③	④	⑤
1 妊娠・分娩・産褥・新生児期の正常からの逸脱を推論することができる。							○			○
2 妊娠・分娩・産褥・新生児期の急変時の対応について説明できる。							○			○
【授業計画】										
	授業計画		担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)						
1	ガイダンス 課題提示 妊娠の異常および妊娠持続期間の異常妊婦のアセスメントと支援(1)		間中 伴子 西脇 裕子	予習(90分):妊娠の異常および妊娠持続期間の異常妊婦のアセスメントと支援について予習する。疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 復習(90分):講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる。						
2	妊娠の異常および妊娠持続期間の異常妊婦のアセスメントと支援(2)		西脇 裕子	予習(90分):妊娠の異常および妊娠持続期間の異常妊婦のアセスメントと支援について予習する。疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 復習(90分):講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる。						
3	GW 事例のアセスメントと支援についてディスカッションを行う。		窪田 裕子 西脇 裕子	予習(180分):ディスカッションに必要な学習、資料の準備を行う。 復習(180分):ディスカッションの結果を自己ノートにまとめ、さらに考察を深めノートにまとめる。						
4										
5	分娩時の異常および妊娠持続期間の異常妊婦のアセスメントと支援(1)		窪田 裕子	予習(90分):分娩時の異常および妊娠持続期間の異常妊婦のアセスメントと支援について予習する。疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 復習(90分):講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる。						
6	分娩時の異常および妊娠持続期間の異常妊婦のアセスメントと支援(2)		窪田 裕子	予習(90分):分娩時の異常および妊娠持続期間の異常妊婦のアセスメントと支援について予習する。疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 復習(90分):講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる。						
7	GW 事例のアセスメントと支援についてディスカッションを行う。		窪田 裕子 西脇 裕子	予習(180分):ディスカッションに必要な学習、資料の準備を行う。 復習(180分):ディスカッションの結果を自己ノートにまとめ、さらに考察を深めノートにまとめる。						
8										
9	胎児及び新生児、付属物の異常のアセスメントと支援(1)		間中 伴子	予習(90分):胎児及び新生児、付属物の異常のアセスメントと支援(1)について予習する。 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 復習(90分):講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる。						
10	胎児及び新生児、付属物の異常のアセスメントと支援(2)			予習(90分):胎児及び新生児、付属物の異常のアセスメントと支援について予習する。 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 復習(90分):講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる。						
11	GW 事例のアセスメントと支援についてディスカッションを行う。		間中 伴子 窪田 裕子	予習(180分):ディスカッションに必要な学習、資料の準備を行う。 復習(180分):ディスカッションの結果を自己ノートにまとめ、さらに考察を深めノートにまとめる。						
12										
13	産科救急における助産ケア・分娩後大出血・肩甲難産		間中 伴子	予習(90分):産科救急における助産ケア・分娩後大出血・肩甲難産について予習する。 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 復習(90分):講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる。						
14	GW 事例のアセスメントと支援についてディスカッションを行う。		間中 伴子 窪田 裕子	予習(180分):ディスカッションに必要な学習、資料の準備を行う。 復習(180分):ディスカッションの結果を自己ノートにまとめ、さらに考察を深めノートにまとめる。						
15										
【アクティブラーニング】			チェック欄	その他の工夫						
①:PBL(課題解決型学習)			○	ビジュランクラウドやDVDを活用する。 Googleフォーム、課題レポートの提出に関してはGoogleドキュメントを活用する。						
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)			○							
③:ディスカッション・ディベート			○							
④:グループワーク			○							
⑤:プレゼンテーション			○							
⑥:実習・フィールドワーク										
【課題のフィードバック】										
・課題レポートに対するフィードバックは、次回の講義に行う。										

【成績の評価方法】 定期試験:80%、課題20% 合計:100% 【生成AI利活用（有）】 1)成績評価の対象となるレポートや課題等の作成において、生成 AI が作成した内容(以下、生成 AI の回答文)をそのまま書き写した提出物は、成績評価の対象として認めません。 活用する場合は、その情報が正しいか確認する作業と引用した場合は、引用した内容と引用元(文献や論文)がわかるように記載してください。 2)生成 AI の回答文を書き写したレポートや論文は、「盗用」、「剽窃(ひょうせつ)」等の不正行為とみなし、懲戒の対象となる可能性があります。 3)課題レポートに関してはGoogle盗用チェック機能を使用します。チェックの結果に10パーセント以上の盗用が認められた場合は、成績評価対象としません。 【ルーブリック評価の活用（有）】 ルーブリック評価表は、授業の中で提示します。
【履修申請上の条件】 特になし
【教科書】 我部山キヨ子編集:助産学講座6第5版、医学書院 我部山キヨ子編集:助産学講座7第5版、医学書院 我部山キヨ子編集:助産学講座8第5版、医学書院 日本産科婦人科学会/日本産婦人科医会編集・監修:産婦人科診療ガイドライ産科編2020
【参考書】 高田利広他編: 助産師業務要覧、日本看護協会出版会看護行政研究会監修: 看護六法、新日本法規出版会 荘村多加志: 五訂 母子保健法の解釈と運用、中央法規出版株式会社
【オープンな教育リソース】 特になし
【担当教員の実務経験】 間中:助産師として臨床では、大学病院、助産所、保健所、院内助産に勤務した。また、大学院助産師教育、看護系大学母性看護学、看護倫理の教育に携わった経験を生かした講義を行う。 窪田:助産師として病院に勤務したのち、長年、助産師教育に携わった経験を生かした教育を行う。 西脇:助産師として、総合病院外来・病棟、助産院での勤務、地域母子保健活動経験をもとに教育を行う。
【オフィスアワー】 間中、窪田、西脇 :月～金 12:10～13:00
【教員連絡先】 間中:tmanaka@g.t-junshin.ac.jp 窪田:yukubota@g.t-junshin.ac.jp 西脇:yunishiwaki@g.t-junshin.ac.jp
【備考】 助産技術の実技については、ゼミ室や実習室で根拠・手順・留意点を踏まえ演習・実習します。演習も技術練習の際は準備から後片付けまでを各人が責任をもって行います。 助産技術は身体侵襲が大きく、苦痛を伴うため、安全第 1 で、正確な知識と根拠に基づいた技術を習得するため練習に励みましょう。

授業科目名	助産診断・技術学演習Ⅰ（妊娠期）	担当教員名	間中 伴子・窪田 裕子・西脇 裕子			
		区分 （必修・選択）	必修	選択		
			○			
期間	前期	単位／時間数／形態	1単位／30時間／演習			
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】					
	① 職業人としての倫理観と慈悲の心を身につけ、すべての人の生命の尊厳を守り、権利を擁護できる能力。					
◎	② 助産師として必要な知識と助産診断技術、実践力を身につけ自立した助産ケアができる能力。					
	③ 他職種との連携・協働しながら対象者のニーズに応じた支援ができる能力。					
	④ 地域社会が求める助産師の役割や責務を認識し地域の母子保健の発展に貢献できる能力。					
○	⑤ 助産師として自律し、自ら学び、自己研鑽、真理探究することができる能力。					

【授業の概要】

産褥退院後の生活に配慮した指導や相談ができるよう、知識・技術を学ぶ。特に、退院指導案の作成と実施、産褥期に用いられる様々な技術を習得する。具体的には、妊娠各期、リスクのある妊婦の模擬事例を用いて助産過程の展開・保健指導案・媒体作成・修正を行う。その後、保健指導の演習を行う。特にリスクのある対象者については臨床推論を取り入れその技術についても学ぶ。また、助産師として医師はじめ多職種と連携・協働するうえで身につけておくことが望ましい超音波診断装置を使った演習は、胎児超音波診断ファントムと臨床で使われている超音波診断装置を使用し手技を身につけられるよう演習を行う。他、妊婦体操の理論と実際は体験型の演習を行う。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー				
	①	②	③	④	⑤
1 妊娠期に必要な助産診断を推論することができる。		○			
2 妊娠期に必要な技術を習得し、ケア実施することができる。		○			
3 東洋医学、アロママッサージ、妊婦体操など技術を実施することができる。		○			

【授業計画】			
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	演習方法のオリエンテーション・事例設定について	間中伴子	シラバスあるいは授業で示される次の授業内容を確認し、予習する(15分) 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる(30分)
2	妊娠初期の助産過程の展開・保健指導案・媒体作成(GW)	間中伴子	シラバスあるいは授業で示される次の授業内容を確認し、予習する(15分) 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる(30分)
3	妊娠初期の助産過程の展開・保健指導案・プレゼンテーション	間中伴子 窪田裕子 西脇裕子	シラバスあるいは授業で示される次の授業内容を確認し、予習する(15分) 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる(30分)
4	妊娠後期の助産過程の展開・保健指導案・媒体作成(GW)	窪田裕子	シラバスあるいは授業で示される次の授業内容を確認し、予習する(15分) 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる(30分)
5	妊娠後期の助産過程の展開・保健指導案・プレゼンテーション	間中伴子 窪田裕子 西脇裕子	シラバスあるいは授業で示される次の授業内容を確認し、予習する(15分) 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる(30分)
6	妊娠初期の保健指導 演習(GW)	西脇裕子	シラバスあるいは授業で示される次の授業内容を確認し、予習する(15分) 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる(30分)
7	妊娠初期～後期の保健指導 演習(プレゼンテーション)	間中伴子 窪田裕子 西脇裕子	シラバスあるいは授業で示される次の授業内容を確認し、予習する(15分) 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる(30分)
8	妊娠後期の保健指導 演習(GW)	窪田裕子	シラバスあるいは授業で示される次の授業内容を確認し、予習する(15分) 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる(30分)
9	後期の保健指導 演習(プレゼンテーション)	間中伴子 窪田裕子 西脇裕子	シラバスあるいは授業で示される次の授業内容を確認し、予習する(15分) 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる(30分)
10	リスクのある妊婦に対する助産過程の展開(GW)	西脇裕子	シラバスあるいは授業で示される次の授業内容を確認し、予習する(150分) 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる(30分)
11	リスクのある妊婦に対する助産過程の展開(プレゼンテーション)	間中伴子 窪田裕子 西脇裕子	シラバスあるいは授業で示される次の授業内容を確認し、予習する(15分) 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる(30分)
12	リスクのある妊婦に対する保健指導 演習(GW)	窪田裕子	シラバスあるいは授業で示される次の授業内容を確認し、予習する(15分) 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる(30分)

13	リスクのある妊婦に対する保健指導 演習(プレゼンテーション)	間中伴子 窪田裕子 西脇裕子	シラバスあるいは授業で示される次の授業内容を確認し、予習する(15分) 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる(30分)	
14	超音波診断装置の活用と実際	間中伴子	シラバスあるいは授業で示される次の授業内容を確認し、予習する(15分) 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる(30分)	
15	妊婦体操の理論と実際	西脇裕子	シラバスあるいは授業で示される次の授業内容を確認し、予習する(15分) 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる(30分)	
【アクティブラーニング】			チェック欄	その他の工夫
①:PBL（課題解決型学習）				ビジュアルクラウドやDVDを活用する。Googleフォーム、課題レポートの提出に関してはC
②:反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）			○	
③:ディスカッション・ディベート			○	
④:グループワーク			○	
⑤:プレゼンテーション				
⑥:実習・フィールドワーク				
【課題のフィードバック】				
・課題レポートに対するフィードバックは、次の講義に行う。				
【成績の評価方法】				
定期試験:80%、課題20% 合計:100%				
【生成AI利活用（ 有 ）】 1)成績評価の対象となるレポートや課題等の作成において、生成 AI が作成した内容(以下、生成 AI の回答文)をそのまま書き写した提出物は、成績評価の対象として認めません。活用する場合は、その情報が正しいか確認する作業と引用した場合は、引用した内容と引用元(文献や論文)がわかるように記載してください。 2)生成 AI の回答文を書き写したレポートや論文は、「盗用」、「剽窃(ひょうせつ)」等の不正行為とみなし、懲戒の対象となる可能性があります。 3)課題レポートに関してはGoogle盗用チェック機能を使用します。チェックの結果に10パーセント以上の盗用が認められた場合は、成績評価対象としません。				
【ルーブリック評価の活用（ 有 ）】 ルーブリック評価表は、授業の中で提示します。				
【履修申請上の条件】				
特になし				
【教科書】 我部山キヨ子編 助産学講座3・7・8 医学書院 UNICEF /WHO 母乳育児支援ガイド スタンダード 医学書院 水野克己、水野紀子 母乳育児支援講座 南山堂 北川真理子 内山和美編集 今日の助産南 仁志田博司 新生児学入門 医学書院 新生児蘇生法テキスト メジカルビュー社				
【参考書】 UNICEF /WHO 母乳育児支援ガイド アドバンスコース 医学書院吉澤豊子 鈴木幸子 マタニティアセスメントガイド 真興交易 我部山キヨ子編 臨床助産師必携 医学書院 その他 授業内で紹介				
【オープンな教育リソース】				
特になし				
【担当教員の実務経験】 間中:助産師として臨床では、大学病院、助産所、保健所、院内助産に勤務した。また、大学院助産師教育、看護系大学母性看護学、看護倫理の教育に携わった経験を生かした講義を行う。 窪田:助産師として病院に勤務したのち、長年、助産師教育に携わった経験を生かした教育を行う。 西脇:助産師として、総合病院外来・病棟、助産院での勤務、地域母子保健活動経験をもとに教育を行う。				
【オフィスアワー】 間中、窪田、西脇:月～金 12:10～13:00				
【教員連絡先】 間中:tmanaka@g.t-junshin.ac.jp 窪田:yukubota@g.t-junshin.ac.jp 西脇:yunishiwaki@g.t-junshin.ac.jp				
【備考】 助産技術の実技については、ゼミ室や実習室で根拠・手順・留意点を踏まえ演習します。技術練習の際は準備から後片付けまでを各人が責任をもって行います。 助産技術は身体侵襲が大きく、苦痛を伴うため、安全第 1 で、正確な知識と根拠に基づいた技術を習得するため練習に励みましょう。				

授業科目名	助産診断・技術学演習Ⅱ(分娩期)	担当教員名	間中 伴子、窪田 裕子、西脇 裕子		
		区分 (必修・選択)	必修	選択	
			○		
期間	前期	単位／時間数／形態	1単位／30時間／演習		
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】				
	① 職業人としての倫理観と慈悲の心を身につけ、すべての人の生命の尊厳を守り、権利を擁護できる能力。				
◎	② 助産師として必要な知識と助産診断技術、実践力を身につけ自立した助産ケアができる能力。				
	③ 他職種との連携・協働しながら対象者のニーズに応じた支援ができる能力。				
	④ 地域社会が求める助産師の役割や責務を認識し地域の母子保健の発展に貢献できる能力。				
○	⑤ 助産師として自律し、自ら学び、自己研鑽、真理探究することができる能力。				

【授業の概要】

助産診断・技術学Ⅱで学んだ理論や知識をもとに、分娩期の援助を行うために必要な助産診断および分娩介助技術、出生直後の児のケアや技術を習得する。また、ハイリスク分娩時の介助技術や会陰裂傷縫合術、産科危機的出血時の対応等について習得する。具体的には、分娩期のフィジカルイグザミネーション(分娩進行度の診断技術(触診・内診の実際、分娩介助に必要な基礎看護技術)、分娩介助法(分娩介助の目的、準備(物品・環境・介助者、分娩介助技術(児頭娩出法・体幹娩出法・胎盤娩出法、分娩進行に応じたケア(呼吸法とリラックス法、分娩進行を促進する体位を担当教員によるデモンストレーションによる分娩介助の演習、新生児のフィジカルイグザミネーション、出生直後の新生児の観察・計測・援助の基本、インファントウォーマーの取扱い、フリースタイル分娩介助法(座位分娩・四つん這い分娩・立位分娩など)、会陰切開および裂傷における会陰縫合術を演習を通して教授する。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー				
	①	②	③	④	⑤
1 分娩期のフィジカルアセスメントについて説明できる。		○			○
2 分娩期の助産診断について説明できる。		○			○
3 分娩介助法について説明できる		○			○
4 産婦への支援について説明できる。		○			○
5 出生直後の新生児のフィジカルアセスメントについて説明できる。		○			○
6 フリースタイル分娩介助法について説明できる		○			○

【授業計画】			
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	分娩期のフィジカルアセスメント 分娩進行度の診断技術(触診・内診の実際) 分娩介助に必要な基礎看護技術(滅菌ガウンテクニック他)	間中 伴子 窪田 裕子 西脇 裕子	予習・復習:(45分)分娩期のフィジカルアセスメントについて予習する。 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 講義後は、講義のポイントを自分で調べノートにまとめ、さらに演習技術を身に着けられるよう、練習を行う。
2	分娩介助法 (1)分娩介助の目的 (2)準備(物品・環境・介助者) (3)分娩介助技術(児頭娩出法・体幹娩出法・胎盤娩出法)	窪田 裕子 西脇 裕子	予習・復習:(45分)分娩介助法について予習する。 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 講義後は、講義のポイントを自分で調べノートにまとめ、さらに演習技術を身に着けられるよう、練習を行う。
3	分娩進行に応じたケア (1)呼吸法とリラックス法 (2)分娩進行を促進する体位	窪田 裕子 西脇 裕子	予習・復習:(45分)分娩進行に応じたケアについて予習する。 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 講義後は、講義のポイントを自分で調べノートにまとめ、さらに演習技術を身に着けられるよう、練習を行う。
4	教員による分娩介助のデモンストレーション 分娩介助の演習	間中 伴子 窪田 裕子 西脇 裕子	予習・復習:(45分)分娩介助法について予習する。 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 講義後は、講義のポイントを自分で調べノートにまとめ、さらに演習技術を身に着けられるよう、練習を行う。
5	新生児のフィジカルアセスメント 出生直後の新生児の観察・計測・援助の基本、 インファントウォーマーの取扱い	間中 伴子 窪田 裕子 西脇 裕子	予習・復習:(45分)新生児のフィジカルアセスメントについて予習する。 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 講義後は、講義のポイントを自分で調べノートにまとめ、さらに演習技術を身に着けられるよう、練習を行う。
6	分娩介助における基本技術の演習	間中 伴子 窪田 裕子 西脇 裕子	予習・復習:(45分)分娩介助法について予習する。 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 講義後は、講義のポイントを自分で調べノートにまとめ、さらに演習技術を身に着けられるよう、練習を行う。
7	教員による分娩介助のデモンストレーション	間中 伴子 窪田 裕子 西脇 裕子	予習・復習:(90分)分娩介助法について予習する。 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 講義後は、講義のポイントを自分で調べノートにまとめ、さらに演習技術を身に着けられるよう、必要に応じて練習を行う。
8			
9	作成した事例に基づく分娩介助の技術チェック	間中 伴子 窪田 裕子 西脇 裕子	予習・復習:(135分)分娩介助法について予習する。 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 講義後は、講義のポイントを自分で調べノートにまとめ、さらに演習技術を身に着けられるよう、練習を行う。
10			
11			

12	フリースタイル分娩介助法について	間中 伴子 窪田 裕子 西脇 裕子	予習・復習:(90分)フリースタイル分娩介助法について予習する。 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 講義後は、講義のポイントを自分で調べノートにまとめ、さらに演習技術を身に付けられるよう、練習を行う。	
13				
14	会陰切開および裂傷における会陰縫合術について(演習)	外部講師	予習・復習:(90分)分娩介助法について予習する。 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 講義後は、講義のポイントを自分で調べノートにまとめ、さらに演習技術を身に付けられるよう、練習を行う。	
15				
【アクティブラーニング】			チェック欄	その他の工夫
①:PBL(課題解決型学習)				ビジュランクラウドやDVDを活用する。 Googleフォーム、課題レポートの提出に関してはGoogleドキュメントを活用する。
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)				
③:ディスカッション・ディベート				
④:グループワーク				
⑤:プレゼンテーション				
⑥:実習・フィールドワーク				
【課題のフィードバック】				
・課題レポートに対するフィードバックは、次回の講義に行う。				
【成績の評価方法】				
実技試験:100%(口頭試験を含む技術チェック 30% 技術試験 70%)で評価する。 合計:100%				
【生成AI活用(無)】				
【ルーブリック評価の活用(有)】 ルーブリック評価表は、授業の中で提示します。				
【履修申請上の条件】				
助産の基礎科目、助産診断・技術学科目を履修していることが望ましい。				
【教科書】				
我部山キヨ子編 助産学講座 7助産診断・技術学Ⅱ[2]分娩期・産褥期 医学書院 我部山キヨ子編 助産学講座 8助産診断・技術学Ⅱ[3]新生児期・乳幼児期 医学書院 町浦美智子編 助産師基礎教育テキスト第 5 巻 分娩期の診断とケア 日本看護協会出版 会小林康江編 助産師基礎教育テキスト第 7 巻 分娩期の診断とケア 日本看護協会出版会 北川真理子、内山和美編 今日の助産 南江堂 進純郎、堀内成子 正常分娩の助産術 医学書院 平澤美恵子 写真でわかる助産技術アドバンス インターメディアカ藤森敬也 胎児心拍数モニタリング講座 メディカ出版 新生児蘇生法テキスト メジカルビュー社				
【参考書】				
レズリー・ ページ(2002)新助産学 メディカ出版／産婦人科診療ガイドライン産科編2020、日本産婦人科学会 進 純郎(2002)周産期の臨床手技106 ペリネイタルケア新春増刊号 メディカ出版／進 純郎(2005)助産師必携会陰保護技術 メディカ出版 岩田塔子(2007)体位別フリースタイル分娩介助法 メディカ出版／戸田律子(2006)WHO の59ヵ条お産のケア実践ガイド 農文協 飯田俊彦(2006)スキルアップ分娩介助 メディカ出版／清水保(2009)よくわかる分娩とその管理 改訂版 2 版 永井書店 我部山キヨ子編 臨床助産師必携 医学書院／プリンシプル産婦人科学 2 ／新版助産師業務要覧 実践編 病気がみえるvol.10産科／母性の心理社会的側面と看護ケア／助産師のためのフィジカルレイザミネーション 他				
【オープンな教育リソース】				
特になし				
【担当教員の実務経験】				
間中:助産師として臨床では、大学病院、助産所、保健所、院内助産に勤務した。また、大学院助産師教育、看護系大学母性看護学、看護倫理の教育に携わった経験を生かした講義を行う。 窪田:助産師として病院に勤務したのち、長年、助産師教育に携わった経験を生かした教育を行う。 西脇:助産師として、総合病院外来・病棟、助産院での勤務、地域母子保健活動経験をもとに教育を行う。				
【オフィスアワー】				
間中、窪田、西脇:月～金 12:10～13:00				
【教員連絡先】				
間中:tmanaka@g.t-junshin.ac.jp 窪田:yukubota@g.t-junshin.ac.jp 西脇:yunishiwaki@g.t-junshin.ac.jp				
【備考】				
助産技術の実技については、ゼミ室や実習室で根拠・手順・留意点を踏まえ演習・実習します。 演習も技術練習の際は準備から後片付けまでを各人が責任をもって行います。 助産技術は身体侵襲が大きく、苦痛を伴うため、安全第 1 で、正確な知識と根拠に基づいた技術を習得するため練習に励みましょう。				

授業科目名	助産診断・技術学演習Ⅲ(産褥・新生児期)	担当教員名	間中 伴子、窪田 裕子、西脇 裕子、芥川 修			
		区分 (必修・選択)	必修	選択		
			○			
年次／期間	前期	単位／時間数／形態	1単位／30時間／演習			
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】					
	① 職業人としての倫理観と慈悲の心を身につけ、すべての人の生命の尊厳を守り、権利を擁護できる能力。					
◎	② 助産師として必要な知識と助産診断技術、実践力を身につけ自立した助産ケアができる能力。					
	③ 他職種との連携・協働しながら対象者のニーズに応じた支援ができる能力。					
	④ 地域社会が求める助産師の役割や責務を認識し地域の母子保健の発展に貢献できる能力。					
○	⑤ 助産師として自律し、自ら学び、自己研鑽、真理探究することができる能力。					

【授業の概要】

助産診断・技術学Ⅲで学んだ知識・技術をもとに、産褥期、新生児期の援助を行うために必要な技術を習得する。また、健康な母子に対する助産診断を行った上で必要な教育を実施できる能力を養う。具体的には産褥期の診断・技術(子宮底測定、触診、復古促進ケア)、母乳育児支援の診断・技術(産褥期の乳房管理・授乳支援、乳房の視診、触診)、産褥期の保健指導技術(母児同室指導、初回授乳指導、退院指導)、早期新生児期の診断・技術演習(出征後24時間以内の新生児の診断とケア、早期申請時期の診断とケア、退院から4か月目までの新生児期の診断・技術演習、(乳幼児のアセスメントとケア)、治療を受ける新生児の診断とケア、低出生体重児・早産時の診断とケア、乳幼児期の診断・技術演習(正常悔過k逸脱状態にある乳幼児の診断とケアを学ぶ。また、新生児蘇生法「専門」コース(Aコース)認定取得を目指す。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー				
	①	②	③	④	⑤
1 産褥期・新生児期に必要なケア技術を実施できる。		○			○
2 母乳育児支援 診断・技術を実施することができる。		○			○
3 産褥期の保健指導を実施することができる。		○			○
4 新生児期の診断・技術を実施できる。		○			○
5 模擬事例を用いて必要な支援のプレゼンテーションを実施することができる。		○			○
6 GWでは、ケアの内容について自らの考えを述べるができる。		○			○
7 新生児蘇生法「専門」コース(Aコース)の認定を取得することができる。		○			○

【授業計画】			
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	産褥期の診断・技術演習(1) 子宮底測定、触診、復古促進ケア	間中 伴子 窪田 裕子 西脇 裕子	予習・復習(45分):産褥期の診断・技術について予習する。 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 講義後は、講義のポイントを自分で調べノートにまとめ、さらに演習技術を身につけられるよう、練習を行う。
2	産褥期の診断・技術演習(2) 子宮底測定、触診、復古促進ケア 模擬事例によるGW	間中 伴子 窪田 裕子 西脇 裕子	予習・復習(45分):産褥期の診断・技術について予習する。 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 講義後は、講義のポイントを自分で調べノートにまとめ、さらに演習技術を身につけられるよう、練習を行う。
3	産褥期の診断技術演習(3) 模擬事例による支援のプレゼンテーション	間中 伴子 窪田 裕子 西脇 裕子	予習・復習(45分):模擬事例による支援のプレゼンテーションの準備を行う。 講義後は、他の学生のプレゼンテーションからの学びや教員のコメントなどをノートにまとめる。
4	母乳育児支援 診断・技術演習(1) 産褥期の乳房管理・授乳支援、乳房の視診、触診 ほか	間中 伴子 窪田 裕子 西脇 裕子	予習・復習(45分):母乳育児支援について予習する。 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 講義後は、講義のポイントを自分で調べノートにまとめ、さらに演習技術を身につけられるよう、練習を行う。
5	母乳育児支援 診断・技術演習(2) 模擬事例によるGW	間中 伴子 窪田 裕子 西脇 裕子	予習・復習(45分):母乳育児支援について予習する。 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 講義後は、講義のポイントを自分で調べノートにまとめ、さらに演習技術を身につけられるよう、練習を行う。
6	母乳育児支援 診断・技術演習(3) 模擬事例による支援のプレゼンテーション	間中 伴子 窪田 裕子 西脇 裕子	予習・復習(45分):模擬事例による支援のプレゼンテーションの準備を行う。 講義後は、他の学生のプレゼンテーションからの学びや教員のコメントなどをノートにまとめる。
7	産褥期の保健指導技術演習(1) 母児同室指導、初回授乳指導、退院指導	間中 伴子 窪田 裕子 西脇 裕子	予習・復習(45分):産褥期の保健指導技術について予習する。 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 講義後は、講義のポイントを自分で調べノートにまとめ、さらに演習技術を身につけられるよう、練習を行う。
8	産褥期の保健指導技術演習(2) 模擬事例によるGW	間中 伴子 窪田 裕子 西脇 裕子	予習・復習(45分):産褥期の保健指導技術について予習する。 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 講義後は、講義のポイントを自分で調べノートにまとめ、さらに演習技術を身につけられるよう、練習を行う。
9	産褥期の保健指導技術演習(3) 模擬事例によるプレゼンテーション	間中 伴子 窪田 裕子 西脇 裕子	予習・復習(45分):模擬事例による支援のプレゼンテーションの準備を行う。 講義後は、他の学生のプレゼンテーションからの学びや教員のコメントなどをノートにまとめる。
10	早期新生児期の診断・技術演習 退院から4か月目までの新生児期の診断・技術演習	間中 伴子 窪田 裕子 西脇 裕子	予習・復習(45分):新生児期の診断・技術について予習する。 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 講義後は、講義のポイントを自分で調べノートにまとめ、さらに演習技術を身につけられるよう、練習を行う。
11	乳幼児期の診断・技術演習	間中 伴子 窪田 裕子 西脇 裕子	予習・復習(45分):乳幼児期の診断・技術について予習する。 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 講義後は、講義のポイントを自分で調べノートにまとめ、さらに演習技術を身につけられるよう、練習を行う。

12	新生児蘇生法「専門」コース受講	間中 伴子 窪田 裕子 西脇 裕子	予習(90分):講習会で使用するテキスト『改訂2版 病院前新生児蘇生法テキスト』を熟読し、 新生児蘇生法Aコースに認定講習に必要な知識の確認を行う。 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 復習(90分):講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる。	
13				
14				
15				
【アクティブラーニング】			チェック欄	その他の工夫
①:PBL（課題解決型学習）			○	ビジュランクラウドやDVDを活用する。 Googleフォーム、課題レポートの提出に関しては Googleドキュメントを活用する。
②:反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）			○	
③:ディスカッション・ディベート			○	
④:グループワーク			○	
⑤:プレゼンテーション				
⑥:実習・フィールドワーク				
【課題のフィードバック】				
・課題レポートに対するフィードバックは、次回の講義に行う。				
【成績の評価方法】				
課題レポート20% 演習・技術試験(助産過程の展開、診断、保健指導案の展開、実施、評価の内容)80% 合計:100%				
【生成AI利活用（ 有 ）】 1)成績評価の対象となるレポートや課題等の作成において、生成 AI が作成した内容(以下、生成 AI の回答文)をそのまま書き写した提出物は、成績評価の対象として認めません。活用する場合は、その情報が正しいか確認する作業と引用した場合は、引用した内容と引用元(文献や論文)がわかるように記載してください。 2)生成 AI の回答文を書き写したレポートや論文は、「盗用」、「剽窃(ひょうせつ)」等の不正行為とみなし、懲戒の対象となる可能性があります。 3)課題レポートに関してはGoogle盗用チェック機能を使用します。チェックの結果に10パーセント以上の盗用が認められた場合は、成績評価対象としません。				
【 ルーブリック評価の活用（ 有 ）】				
【履修申請上の条件】				
特になし				
【教科書】				
我部山キヨ子編 助産学講座3・7・8 医学書院 UNICEF／WHO 母乳育児支援ガイド スタンダード 医学書院水野克己、水野紀子 母乳育児支援講座 南山堂 北川真理子 内山和美編集 今日の助産 函江堂仁志田博司 新生児学入門 医学書院 新生児蘇生法テキスト メジカルビュー社				
【参考書】				
UNICEF／WHO 母乳育児支援ガイド アドバンスコース 医学書院吉澤豊子 鈴木幸子 マタニティアセスメントガイド 真興交易 我部山キヨ子編 臨床助産師必携 医学書院 その他 授業内で紹介				
【オープンな教育リソース】				
特になし				
【担当教員の実務経験】				
間中:助産師として臨床では、大学病院、助産所、保健所、院内助産に勤務した。また、大学院助産師教育、看護系大学母性看護学、看護倫理の教育に携わった経験を生かした講義を行う。 窪田:助産師として病院に勤務したのち、長年、助産師教育に携わった経験を生かした教育を行う。 西脇:助産師として、総合病院外来・病棟、助産院での勤務、地域母子保健活動経験をもとに教育を行う。				
【オフィスアワー】				
間中、窪田、西脇 :月～金 12:10～13:00				
【教員連絡先】				
間中:tmanaka@g.t-junshin.ac.jp 窪田:yukubota@g.t-junshin.ac.jp 西脇:yunishiwaki@g.t-junshin.ac.jp				
【備考】				
対象者のニーズに沿い、より具体的で意義のある健康教育となるよう、主体的かつチームで協力して進めることを期待します。 正確な知識と根拠に基づいた技術を習得するため練習に励みましょう。				

授業科目名	地域母子保健	担当教員名	益田 早苗		
		区分 (必修・選択)	必修	選択	
			○		
期間	前期	単位／時間数／形態	1単位／15時間／講義		
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】				
	① 職業人としての倫理観と慈悲の心を身につけ、すべての人の生命の尊厳を守り、権利を擁護できる能力。				
○	② 助産師として必要な知識と助産診断技術、実践力を身につけ自立した助産ケアができる能力。				
	③ 他職種との連携・協働しながら対象者のニーズに応じた支援ができる能力。				
◎	④ 地域社会が求める助産師の役割や責務を認識し地域の母子保健の発展に貢献できる能力。				
○	⑤ 助産師として自律し、自ら学び、自己研鑽、真理探究することができる能力。				

【授業の概要】

母子保健の現状から女性・子ども・家族の健康生活を支援する助産師の役割を学ぶとともに、地域における活動を行う上で求められる基礎的な知識や活動の実際について学ぶ。具体的には、助産師として必須とされるより知識である「母子保健行政の仕組みや母子保健事業への参画と評価」、「母子に関する社会保障制度」、「母子保健に関する統計」、「法に基づいた訪問指導」、わが国の課題となりつつある「特定妊婦・障害児・未熟児・双子、外国人妊産婦・海外在住日本人妊産婦の地域における子育て家庭の現状」、「母子保健における包括ケア」、「新生児期、乳幼児期の不慮の事故・乳幼児の健康診査」、「産後 1 か月母子訪問」を地域で活動する専門家による講義を行う。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー				
	①	②	③	④	⑤
1 地域母子保健行政の意義について説明できる。				○	
2 地域母子保健の現状と動向と課題について説明できる。	○	○		○	○
3 地域母子保健行政の体系と主な母子保健に関わる関係機関の役割と連携について説明できる。		○	○	○	○
4 地域母子保健活動の展開を通して助産師の地域活動に必要な役割について説明できる。		○	○	○	○
5 災害時の地域母子保健活動について説明できる。	○	○	○	○	○

【授業計画】			
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	母子保健行政 1)母子保健行政の仕組み 2)母子保健計画事業への参画と評価	益田早苗	予習(90分)母子保健行政について予習する。 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 復習(90分)講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる。
2	母子に関する社会保障制度	益田早苗	予習(90分)母子に関する社会保障制度について予習する。 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 復習(90分)講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる。□
3	母子保健統計	益田早苗	予習(90分)母子保健統計について予習する。 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 復習(90分)講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる。
4	法に基づいた訪問指導 1)妊婦訪問指導 2)新生児訪問指導 3)褥婦訪問指導	益田早苗	予習(90分)法に基づいた訪問指導について予習する。 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 復習(90分)講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる。□
5	地域における子育て家庭の現状 特定妊婦・障害児・未熟児・双子 外国人妊産婦・海外在住日本人妊産婦	益田早苗	予習(90分)地域における子育て家庭の現状について予習する。 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 復習(90分)講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる。
6	母子保健における包括ケア 地域母子保健活動の展開 DV・児童虐待防止	益田早苗	予習(90分)母子保健における包括ケアについて予習する。 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 復習(90分)講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる。
7	新生児期、乳幼児期の不慮の事故・乳幼児の健康診査	益田早苗	予習(90分)新生児期、乳幼児期の不慮の事故・乳幼児の健康診査について予習する。 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 復習(90分)講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる。□
8	災害時の地域母子保健活動 災害の種類 災害サイクルと各期の対応 母子保健支援者へのケア	益田早苗	予習(90分)災害時の地域母子保健活動について予習する。 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 復習(90分)講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる。

【アクティブラーニング】		チェック欄	その他の工夫
①:PBL（課題解決型学習）			ビジュランクラウドやDVDを活用する。 Googleフォーム、課題レポートの提出に関してはGoogleドキュメントを活用する。
②:反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）		○	
③:ディスカッション・ディベート			
④:グループワーク			
⑤:プレゼンテーション			
⑥:実習・フィールドワーク			

【課題のフィードバック】

課題レポートに対するフィードバックは、次回の講義に行う。

【成績の評価方法】 レポート100% 合計:100% 【生成AI活用（ 有 ）】 1)成績評価の対象となるレポートや課題等の作成において、生成 AI が作成した内容(以下、生成 AI の回答文)をそのまま書き写した提出物は、成績評価の対象として認めません。 活用する場合は、その情報が正しいか確認する作業と引用した場合は、引用した内容と引用元(文献や論文)がわかるように記載してください。 2)生成 AI の回答文を書き写したレポートや論文は、「盗用」、「剽窃(ひょうせつ)」等の不正行為とみなし、懲戒の対象となる可能性があります。 3)課題レポートに関してはGoogle盗用チェック機能を使用します。チェックの結果に10パーセント以上の盗用が認められた場合は、成績評価対象としません。 【ループリック評価の活用（ 無 ）】
【履修申請上の条件】 特になし
【教科書】 我部山キヨ子編 助産学講座 9 地域母子保健・国際母子保健、医学書院
【参考書】 講義の際に配布資料として準備する
【オープンな教育リソース】 特になし
【担当教員の実務経験】 助産師であり、助産師教育に長年かかわってきた。また、社会福祉士学博士として要支援組の活動を行うNPO法人での活動を通して得た経験を生かした講義を行う。
【オフィスアワー】 学務課を通して対応する
【教員連絡先】 学務課を通して対応する
【備考】 母子保健活動の意義を考察し、母子保健医療チームの一員として時代の変化に対応した柔軟かつ創造的に協働・連携できるように、多面的な視点から母子保健活動の実際や課題を明らかにできるような力を修得しましょう。

授業科目名	地域母子保健演習	担当教員名	益田 早苗・窪田 裕子・西脇 裕子		
		区分 (必修・選択)	必修	選択	
			○		
期間	前期	単位／時間数／形態	1単位／30時間／演習		
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】				
	① 職業人としての倫理観と慈悲の心を身につけ、すべての人の生命の尊厳を守り、権利を擁護できる能力。				
◎	② 助産師として必要な知識と助産診断技術、実践力を身につけ自立した助産ケアができる能力。				
	③ 他職種との連携・協働しながら対象者のニーズに応じた支援ができる能力。				
○	④ 地域社会が求める助産師の役割や責務を認識し地域の母子保健の発展に貢献できる能力。				
○	⑤ 助産師として自律し、自ら学び、自己研鑽、真理探究することができる能力。				

【授業の概要】

地域の母子保健の現状を理解するために、実習する予定の地域の母子に焦点をあてた地区診断を行い、フィールドの分析、様々な社会資源などの内容について学習する。市町が行う母子保健事業を通して、地域における健康支援の実際を学ぶ。また、母子とその家族の健康状態を地域特性に関連付けてアセスメントし、助産師の視点に基づいた母子保健におけるヘルスプロモーションを考察していく。具体的には、母子を取り巻く社会、地域の変化 GW、プレゼンテーション、母子保健統計、妊娠期からのサポート、母子保健行政、母子に関する社会保障制度、地域母子保健活動の展開 DV・児童虐待防止、新生児期、乳幼児期の不慮の事故・乳幼児の健康診査、新生児訪問などに関する演習を行う。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー				
	①	②	③	④	⑤
1 母子を取り巻く社会、地域の変化について説明できる。		○			
2 地域における妊娠期からのサポートについて説明できる。		○		○	○
3 母子保健行政について説明できる		○		○	○
4 地域における啓発活動の取り組みについて説明できる。		○		○	○
5 母子に関する社会保障制度について説明することができる。		○		○	○
6 新生児期、乳幼児期の不慮の事故・乳幼児の健康診査について説明できる。		○		○	○
7 地域母子保健活動の展開 DV・児童虐待防止		○		○	○
8 法に基づいた訪問指導について説明できる		○		○	○
9 模擬事例に対する新生児訪問の実施計画を立案することができる。		○		○	○

【授業計画】			
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	母子を取り巻く社会、地域の変化 GW	益田早苗 窪田裕子 西脇裕子	予習・復習(45分) 母子を取り巻く社会、地域の変化について予習する。 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる。
2	母子を取り巻く社会、地域の変化 GW発表、	益田早苗 窪田裕子 西脇裕子	予習・復習(45分) 母子を取り巻く社会、地域の変化ついて予習する。 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる。
3	母子保健統計	益田早苗 窪田裕子 西脇裕子	予習・復習(45分) 母子保健統計について予習する。 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる。
4	地域における妊娠期からのサポート	益田早苗 窪田裕子 西脇裕子	予習・復習(45分) 新生児期、乳幼児期の不慮の事故・乳幼児の健康診査について予習する。 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる。
5	母子保健行政 1)母子保健行政の仕組み 2)母子保健計画事業への参画と評価	益田早苗 窪田裕子 西脇裕子	予習・復習(45分) 地域における妊娠期からのサポートについて予習する。 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる。
6	母子に関する社会保障制度	益田早苗 窪田裕子 西脇裕子	予習・復習(45分) 母子に関する社会保障制度について予習する。 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる。
7	地域母子保健活動の展開 DV・児童虐待防止	益田早苗 窪田裕子 西脇裕子	予習・復習(45分) 地域母子保健活動の展開 DV・児童虐待防止について予習する。 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる。
8	新生児期、乳幼児期の不慮の事故・乳幼児の健康診査	益田早苗 窪田裕子 西脇裕子	予習・復習(45分) 新生児期、乳幼児期の不慮の事故・乳幼児の健康診査について予習する。 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる。
9	*啓発活動の取り組み(テーマを決めて GW) リーフレット等の作成と配布	益田早苗 窪田裕子 西脇裕子	予習(90分):啓発活動の取り組みについて予習する。 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 復習(90分)講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる。
10			
11			
12			

13	法に基づいた訪問指導 1)妊婦訪問指導 2)新生児訪問指導 3)褥婦訪問指導	益田早苗 窪田裕子 西脇裕子	予習・復習(45分) 法に基づいた訪問指導について予習する。 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる。	
14	新生児訪問演習	益田早苗 窪田裕子 西脇裕子	予習(45分):新生児訪問について予習する。 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 復習(45分)講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる。	
15				
【アクティブラーニング】			チェック欄	その他の工夫
①:PBL（課題解決型学習）				ビジュランクラウドやDVDを活用する。 Googleフォーム、課題レポートの提出に関してはGoogleドキュメントを活用する。
②:反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）			○	
③:ディスカッション・ディベート				
④:グループワーク			○	
⑤:プレゼンテーション			○	
⑥:実習・フィールドワーク				
【課題のフィードバック】				
課題レポートに対するフィードバックは、次回の講義に行う。				
【成績の評価方法】				
レポート100% 合計:100%				
【生成AI利活用（ 有 ）】 1)成績評価の対象となるレポートや課題等の作成において、生成 AI が作成した内容(以下、生成 AI の回答文)をそのまま書き写した提出物は、成績評価の対象として認めません。 活用する場合は、その情報が正しいか確認する作業と引用した場合は、引用した内容と引用元(文献や論文)がわかるように記載してください。 2)生成 AI の回答文を書き写したレポートや論文は、「盗用」、「剽窃(ひょうせつ)」等の不正行為とみなし、懲戒の対象となる可能性があります。 3)課題レポートに関してはGoogle盗用チェック機能を使用します。チェックの結果に10パーセント以上の盗用が認められた場合は、成績評価対象としません。				
【 ルーブリック評価の活用（ 有 ）】 ルーブリック評価表は、授業の中で提示します。				
【履修申請上の条件】				
助産の基礎科目・助産診断・技術学を履修していることが望ましい。				
【教科書】				
助産診断・技術学Ⅰ(妊娠期)、助産診断・技術学Ⅱ(分娩期)、助産診断・技術学Ⅲ(産褥期・新生児期)、ハイリスク妊娠助産診断・技術学、助産診断・技術演習Ⅰ(妊娠期)、助産診断・技術演習Ⅱ(分娩期)、助産診断・技術演習Ⅲ(産褥・新生児期)、助産管理学、地域母子保健、助産過程演習、地域母子保健演習などの授業に準ずる				
【参考書】				
助産診断・技術学Ⅰ(妊娠期)、助産診断・技術学Ⅱ(分娩期)、助産診断・技術学Ⅲ(産褥期・新生児期)、ハイリスク妊娠助産診断・技術学、助産診断・技術演習Ⅰ(妊娠期)、助産診断・技術演習Ⅱ(分娩期)、助産診断・技術演習Ⅲ(産褥・新生児期)、助産管理学、地域母子保健、助産過程演習、地域母子保健演習などの授業に準ずる				
【オープンな教育リソース】				
特になし				
【担当教員の実務経験】				
益田:助産師であり、病院勤務ののち助産師教育に長年かかわってきた。 また、社会福祉士学博士として要支援組の活動を行うNPO法人での活動を通して得た経験を生かした講義を行う。 窪田:助産師として病院に勤務したのち、長年、助産師教育に携わった経験を生かした教育を行う。 西脇:助産師として、総合病院外来・病棟、助産院での勤務、地域母子保健活動経験をもとに教育を行う。				
【オフィスアワー】				
益田:学務課を通して対応する。 窪田・西脇:月～金 12:10～13:00				
【教員連絡先】				
益田:学務課を通して対応する。 窪田:yukubota@g.t-junshin.ac.jp 西脇:ynishiwaki@g.t-junshin.ac.jp				
【備考】				
特になし				

授業科目名	助産過程演習	担当教員名	窪田 裕子・西脇 裕子・間中伴子		
		区分 (必修・選択)	必修	選択	
			○		
期間	通年	単位／時間数／形態	1単位／30時間／演習		
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】				
	① 職業人としての倫理観と慈悲の心を身につけ、すべての人の生命の尊厳を守り、権利を擁護できる能力。				
◎	② 助産師として必要な知識と助産診断技術、実践力を身につけ自立した助産ケアができる能力。				
	③ 他職種との連携・協働しながら対象者のニーズに応じた支援ができる能力。				
	④ 地域社会が求める助産師の役割や責務を認識し地域の母子保健の発展に貢献できる能力。				
○	⑤ 助産師として自律し、自ら学び、自己研鑽、真理探究することができる能力。				

【授業の概要】

対象となる母児やその家族の特性を理解し、助産学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの実習を通して、妊娠期、分娩期、産褥・新生児期の事例を用いて助産過程の展開の振り返り、助産診断・実践・評価能力を習得する。具体的には、分娩の生理・病態生理と正常からの逸脱を識別するために必要な知識と対象の身体的・精神的・社会的要素・家族も視野にいれた診断・アセスメントからよりよい援助を提供するための知識・技術を修得する。問題解決思考をベースとした思考過程を用いることで、対象の個性や状況に応じた助産ケアを実践するための基本を学ぶ。助産師としての役割を遂行するために、各期の対象の特性をイメージし、アセスメント～評価までの思考を言語化する訓練を行う。また、この科目では、助産過程を用いて実践に即したシミュレーション学習を行う。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー				
	①	②	③	④	⑤
1 助産ケアを実践するための助産過程の概要を説明できる。		○			○
2 対象の特性と助産診断類型を踏まえた情報収集の視点や方法が説明できる。		○			○
3 診断の前提となる情報の解釈の視点がわかり、分析したことを述べることができる。		○			○
4 各期の助産診断の特徴がわかり、ガイドブックを用いた診断ができる。		○			○
5 対象理解、現状分析、助産診断に基づき一貫性のある目標と、優先順位を加味した具体策が立案できる。		○			○
6 助産師の役割を前提とした実施・評価の視点が説明できる。		○			○
7 助産過程のプロセスを用いてポイントを押えた記述ができる(演習)。		○			○
8 臨床場面に即した状況の中で、既習の知識技術を用いて、シミュレーションが実践できる。		○			○

【授業計画】			
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	1.助産過程とは 2.助産師の役割と助産過程 3.助産診断の特徴と診断類型 4. 看護過程と助産過程	窪田裕子 西脇裕子	予習・復習(45分):助産過程、助産師の役割と助産過程、助産診断の特徴と診断類型について予習する。 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 講義後は、講義のポイントを自分で調べノートにまとめ、さらに演習技術を身に着けられるよう、練習を行う。
2	□アセスメント～診断のプロセス 1) 情報収集 対象を理解することの重要性 2) 情報の整理・分析・解釈 基礎情報 情報収集のポイント	窪田裕子 西脇裕子	予習・復習(45分):アセスメント～診断のプロセスについて予習する。 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 講義後は、講義のポイントを自分で調べノートにまとめ、さらに演習技術を身に着けられるよう、練習を行う。
3	2. 診断～計画(目標)のプロセス 1) マタニティ診断 各期の助産診断の特徴と診断類型 経過診断／健康生活診断 診断上のルール アセスメントー診断の関係性	窪田裕子 西脇裕子	予習・復習(90分):アセスメント～診断のプロセスについて予習する。 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 講義後は、講義のポイントを自分で調べノートにまとめ、さらに演習技術を身に着けられるよう、練習を行う。
4	2) 計画のプロセス 状況に応じた目標設定とは アセスメントと目標の関係性	窪田裕子 西脇裕子	
5	3. 計画(具体策)～評価のプロセス 4. 実施のプロセス	窪田裕子 西脇裕子	予習・復習(90分):計画(具体策)～評価のプロセス、実施のプロセスについて予習する。 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 講義後は、講義のポイントを自分で調べノートにまとめ、さらに演習技術を身に着けられるよう、練習を行う。
6		窪田裕子 西脇裕子	
7	5. 評価のプロセス 助産実践における評価の視点	窪田裕子 西脇裕子	予習・復習(45分):計画(具体策)～評価のプロセス、実施のプロセス評価のプロセスについて予習する。 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 講義後は、講義のポイントを自分で調べノートにまとめ、さらに演習技術を身に着けられるよう、練習を行う。
8	1.産褥期の事例展開 1)事例紹介 2)事例の情報整理・分析 3)産褥期の助産診断 4)産褥期の計画立案 5)グループワーク 6)産褥期助産過程のまとめ	窪田裕子 西脇裕子	予習・復習(90分):産褥期の事例展開について予習する。 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 講義後は、講義のポイントを自分で調べノートにまとめ、さらに演習技術を身に着けられるよう、練習を行う。
9		窪田裕子 西脇裕子	
10	1.妊娠期の事例展開 1)事例紹介 2)事例の情報整理・分析 3)妊娠期の助産診断 4)妊娠期の計画立案	窪田裕子 西脇裕子	予習・復習(90分):妊娠期の事例展開について予習する。 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 講義後は、講義のポイントを自分で調べノートにまとめ、さらに演習技術を身に着けられるよう、練習を行う。
11	週数に応じた保健指導を中心に 5)妊娠期助産過程の要点の整理	窪田裕子 西脇裕子	

12	1.分娩期の事例展開 1)事例紹介 2)事例の情報整理・分析	窪田裕子 西脇裕子	予習・復習(90分):分娩期の事例展開について予習する。 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 講義後は、講義のポイントを自分で調べノートにまとめ、 さらに演習技術を身に付けられるよう、練習を行う。	
13	3)分娩期の助産診断 4)分娩期の計画立案 5)妊娠期助産過程の要点の整理	窪田裕子 西脇裕子		
14	事例展開プレゼンテーション	窪田裕子 西脇裕子 間中伴子	予習・復習(90分):8回から～13回までに行った事例展開を分娩期の事例展開について予習する。疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 講義後は、講義のポイントを自分で調べノートにまとめ、 さらに演習技術を身に付けられるよう、練習を行う。	
15				
【アクティブラーニング】			チェック欄	その他の工夫
①:PBL（課題解決型学習）			○	ビジュアルクラウドやDVDを活用する。 Googleフォーム、課題レポートの提出に関してはGoogleドキュメントを活用する。
②:反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）			○	
③:ディスカッション・ディベート			○	
④:グループワーク			○	
⑤:プレゼンテーション			○	
⑥:実習・フィールドワーク				
【課題のフィードバック】				
課題レポートに対するフィードバックは、次回の講義に行う。				
【成績の評価方法】				
レポート20%、演習課題 20% 事例展開 40% プレゼンテーション20% 合計:100%				
【生成AI利活用（ 有 ）】 1)成績評価の対象となるレポートや課題等の作成において、生成 AI が作成した内容(以下、生成 AI の回答文)をそのまま書き写した提出物は、成績評価の対象として認めません。 活用する場合は、その情報が正しいか確認する作業と引用した場合は、引用した内容と引用元（文献や論文）がわかるように記載してください。 2)生成 AI の回答文を書き写したレポートや論文は、「盗用」、「剽窃(ひょうせつ)」等の不正行為とみなし、懲戒の対象となる可能性があります。 3)課題レポートに関してはGoogle盗用チェック機能を使用します。チェックの結果に10パーセント以上の盗用が認められた場合は、成績評価対象としません。				
【ルーブリック評価の活用（ 有 ）】 グループワークやプレゼンテーションのルーブリック評価表は、授業の中で提示します。				
【履修申請上の条件】				
助産の基礎科目、助産診断・技術学を履修していることが望ましい。				
【教科書】				
実践 マタニティ診断 第5版 医学書院 マタニティ診断ガイドブック 第6版 医学書院 助産診断・技術学Ⅰ（妊娠期）、助産診断・技術学Ⅱ（分娩期）、助産診断・技術学Ⅲ（産褥期・新生児期）、ハイリスク妊娠助産診断・技術学、 助産診断・技術演習Ⅰ（妊娠期）、助産診断・技術演習Ⅱ（分娩期）、助産診断・技術演習Ⅲ（産褥・新生児期）、助産管理学、地域母子保健、助産過程演習、 地域母子保健演習などの授業に準ずる				
【参考書】				
講義の際に紹介する				
【オープンな教育リソース】				
特になし				
【担当教員の実務経験】				
窪田:助産師として病院に勤務したのち、長年、助産師教育に携わった経験を生かした教育を行う。 西脇:助産師として、総合病院外来・病棟、助産院での勤務、地域母子保健活動経験をもとに教育を行う。				
【オフィスアワー】				
窪田裕子 月～金 12:10～13:00 西脇裕子 月～金 12:10～13:00				
【教員連絡先】				
窪田:yukubota@g.t-junshin.ac.jp 西脇:ynishiwaki@g.t-junshin.ac.jp				
【備考】				
確実な知識や診断能力を訓練し、根拠に基づく助産ケアを提供できるように学習していきましょう。				

授業科目名	助産管理学	担当教員名	間中伴子 桐生久美子 内野夏希 今村理恵子		
		区分 (必修・選択)	必修	選択	
			○		
期間	前期	単位／時間数／形態	2単位／30時間／講義		
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】				
	① 職業人としての倫理観と慈悲の心を身につけ、すべての人の生命の尊厳を守り、権利を擁護できる能力。				
◎	② 助産師として必要な知識と助産診断技術、実践力を身につけ自立した助産ケアができる能力。				
	③ 他職種との連携・協働しながら対象者のニーズに応じた支援ができる能力。				
	④ 地域社会が求める助産師の役割や責務を認識し地域の母子保健の発展に貢献できる能力。				
○	⑤ 助産師として自律し、自ら学び、自己研鑽、真理探究することができる能力。				

【授業の概要】

恵管理の基本概念を学び助産業務の特性と管理過程を理解する。また、助産師として職業倫理について理解を深める。具体的には、助産管理の概念や関係法規、周産期の医療事故と予防対策、助産所・診療所及び産科病棟の管理運営について学修するとともに、東京都の周産期管理システムについても理解を深める。さらに、災害時の助産管理の在り方についても学ぶ。他、助産所における助産管理として、助産所に関する関係法規、助産所の安全管理、助産所の経営、医療機関との連携、オープンシステムなど学ぶ。また、助産外来・院内助産・周産期医療における連携・協働周産期医療システム、地域における助産管理、・地域/多職種との連携と助産師の役割、地域包括ケアシステム、子育て世代包括支援センター、地域における助産所の活動女性の健康と助産師をテーマに地域における助産師の役割、連携について学修する。また、周産期における医療安全の視点から周産期のリスクマネジメント、災害とリスクマネジメント災害対策・支援活動についても理解を深める。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー				
	①	②	③	④	⑤
1 管理の基本概念を述べることができる。		○			○
2 助産実践の場の違いによる管理の特性を述べることができる。		○			○
3 助産管理に関連する法規、社会保障制度を述べることができる。		○			○
4 助産所開設に必要な書類や施設の準備について説明できる。		○			○

【授業計画】			
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	1)助産管理の概念 2)助産所における助産管理 ①助産所に関する関係法規 ②助産所の安全管理 ③助産所の経営 ④医療機関との連携 3)オープンシステム、助産外来・院内助産 ・周産期医療における連携・協働周産期医療システムについて	今村 理恵子	予習(90分):助産管理の概念、助産所における助産管理について予習する。 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 復習(90分):講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる。
2	4)地域における助産管理 ・地域/多職種との連携と助産師の役割 ①地域包括ケアシステム ②子育て世代包括支援センター ③地域における助産所の活動女性の健康と助産師	今村 理恵子	予習(90分):地域における助産管理について予習する。 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 復習(90分):講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる。
3	・地域における助産師の役割、連携	今村 理恵子	予習(90分):地域における助産師の役割、連携について予習する。 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 復習(90分):講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる。
4	1) 地域における周産期医療体制 各自の出身都道府県の周産期医療体制についてプレゼンテーション1	間中 伴子 窪田 裕子 西脇 裕子	予習(90分):地域における周産期医療体制について予習する。 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 復習(90分):講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる。
5	□管理の基本、過程 ・業務分析・目標管理・評価 ・PDCA サイクル 2)助産業務管理の基本 ・人事、物品、経済、情報、時間 ・人材育成	桐生久美子	予習(90分):管理の基本、助産業務管理の基本過程について予習する。 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 復習(90分):講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる。
6	地域との連携、ネットワーク 4)業務の質の管理 助産サービスの評価周産期医療システム 多職種連携と助産 5)助産業務管理の実際 産科病棟における看護師長業務第 助産所における助産業務管理助産業務管理の方法 助産所の管理・運営・経営・助産業務と医療事故	桐生久美子	予習(90分):地域との連携、ネットワークについて予習する。 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 復習(90分):講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる。
7	助産管理の基本と助産業務管理 5)病院における助産業務管理の実際 ①産科棟における助産管理 ・看護サービスマネジメントと診療報酬 ・業務基準・手順の作成と検討 ・看護記録 ・教育の管理	桐生久美子	予習(90分):について予習する。 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 復習(90分):講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる。
8	②外来の助産管理 ③周産期医療事故とリスクマネジメント	桐生久美子	予習(90分):助産管理の基本と助産業務管理について予習する。 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 復習(90分):講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる。
9	④災害とリスクマネジメント ⑤周産期医療システム下における助産師の活動の実際	桐生久美子	予習(90分):災害とリスクマネジメント、周産期医療システム下における助産師の活動について予習する。 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 復習(90分):講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる。

10	7)助産所における業務管理の実際 ・助産所運営の実際 ・助産所業務ガイドライン	今村 理恵子	予習(90分):助産所における業務管理の実際について予習する。 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 復習(90分):講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる。	
11	・嘱託医の連携・協働 ・オープンシステムの運営 ・産後ケア事業の実際	今村 理恵子	予習(90分):嘱託医の連携・協働、オープンシステムの運営、 産後ケア事業の実際について予習する。 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 復習(90分):講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる。	
12	助産業務と医療経済 1)医療保険制度 2)助産業務と診療報酬・分娩費用	今村 理恵子	予習(90分):助産業務と医療経済について予習する。 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 復習(90分):講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる。	
13	周産期における医療安全 1)周産期のリスクマネジメント ①医療事故防止、感染対策 ②事故対応と損害賠償 ③産科医療補償制度 災害とリスクマネジメント災害対策・支援活動	内野 夏希	予習(90分):について予習する。 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 復習(90分):講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる。	
14	助産師及び助産師の業務に関わる法と責任 1)助産業務に関わる関係法規 ・関係法規	間中 伴子	予習(90分):助産業務に関わる関係法規について予習する。 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 復習(90分):講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる。	
15	助産師及び助産師の業務に関わる法と責任 1)助産業務に関わる関係法規 ・法的責任と義務	間中 伴子	予習(90分):助産師及び助産師の業務に関わる法と責任について予習する。 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 復習(90分):講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる。	
【アクティブラーニング】			チェック欄	その他の工夫
①:PBL（課題解決型学習）				ビジュランクラウドやDVDを活用する。Googleフォーム、課題レポートの提出に関してはC
②:反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）			○	
③:ディスカッション・ディベート			○	
④:グループワーク			○	
⑤:プレゼンテーション			○	
⑥:実習・フィールドワーク				
【課題のフィードバック】				
課題レポートに対するフィードバックは、次回の講義に行う。				
【成績の評価方法】				
レポート(助産所開設計画)30%、筆記試験70% 合計:100%				
【生成AI利活用（ 有 ）】 1)成績評価の対象となるレポートや課題等の作成において、生成 AI が作成した内容(以下、生成 AI の回答文)をそのまま書き写した提出物は、成績評価の対象として認めません。 活用する場合は、その情報が正しいか確認する作業と引用した場合は、引用した内容と引用元(文献や論文)がわかるように記載してください。 2)生成 AI の回答文を書き写したレポートや論文は、「盗用」、「剽窃(ひょうせつ)」等の不正行為とみなし、懲戒の対象となる可能性があります。 3)課題レポートに関してはGoogle盗用チェック機能を使用します。チェックの結果に10パーセント以上の盗用が認められた場合は、成績評価対象としません。				
【ルーブリック評価の活用（ 有 ）】 ルーブリック評価表は、授業の中で提示します。				
【履修申請上の条件】				
特になし				
【教科書】				
我部山キヨ子編 助産学講座10 助産管理 医学書院				
【参考書】				
高田利広他編:助産師業務要覧、日本看護協会出版会看護行政研究会監修:看護六法、新日本法規出版会 庄村多加志:五訂 母子保健法の解釈と運用、中央法規出版株式会社				
【オープンな教育リソース】				
特になし				
【担当教員の実務経験】				
今村 理恵子:助産師として病院勤務を経て助産院で活動している経験を生かした講義を行う。 桐生 久美子:助産師として大学病院総合周産期センター看護師長の経験を生かした講義を行う。 内野 夏希:助産師として病院に勤務、大学病院総合周産期センター副看護師長を務めている経験を生かした講義を行う。 間中 伴子:助産師として臨床では、大学病院、助産所、保健所、院内助産に勤務した。また、大学院助産師教育、看護系大学母性看護学、 看護倫理の教育に携わった経験を生かした講義を行う。				
【オフィスアワー】				
外部講師の場合は、学務課を通して対応する。 間中:月～金 12:10～13:00				
【教員連絡先】				
外部講師の場合は、学務課を通して対応する。 間中:メールアドレス tmanaka@g.t-junshin.ac.jp				
【備考】				
助産管理の基本と、助産管理の実際(含医療事故防止・対応)を病院・助産院等の助産活動を通して理解しましょう。実習の間では、管理の視点も忘れず見ることも意識しましょう。				

授業科目名	助産学実習Ⅰ（妊娠期）	担当教員名	間中伴子、窪田裕子、西脇裕子 非常勤講師		
コード		区分 （必修・選択）	必修	選択	
			○		
期間	通年	単位／時間数／形態	2単位／60時間／実習		
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】				
	① 職業人としての倫理観と慈悲の心を身につけ、すべての人の生命の尊厳を守り、権利を擁護できる能力。				
◎	② 助産師として必要な知識と助産診断技術、実践力を身につけ自立した助産ケアができる能力。				
○	③ 他職種との連携・協働しながら対象者のニーズに応じた支援ができる能力。				
	④ 地域社会が求める助産師の役割や責務を認識し地域の母子保健の発展に貢献できる能力。				
○	⑤ 助産師として自律し、自ら学び、自己研鑽、真理探究することができる能力。				

【授業の概要】

妊婦の健康診査、保健指導を通して、妊婦と胎児の健康状態や健康課題を診断する能力、妊娠経過の正常・異常を診断するための能力、妊婦とその家族のセルフケア能力を高める助産実践能力を修得する。集団指導である健康教育については、妊娠期にある対象の助産診断を行い、ウェルネスの看護を踏まえた保健指導について実践する。具体的には、妊婦、胎児の健康状態を問診、外診、内診、臨床検査などの診断技術を用いた母体の健康状態の診断、ME 機器、外診などによる胎児および付属物の診断を行う。妊婦のケアと保健指導については、妊婦の身体的変化への適応を促すケア、妊婦の心理的、社会的変化への適応を促す支援、妊娠期の母親役割取得を促進するための支援を実施する。さらには、妊婦のセルフケア能力の診断と支援、妊婦とその家族の意思決定を尊重した支援として妊婦とその家族の意思決定の支持、パートナーや家族から適切なサポートが受けられるための支援を実施する。そして、妊娠期における母乳育児を行うための準備と指導、妊婦とその家族の役割適応を促すための支援として出産準備教育、産後の生活調整を行うための支援を実施する。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー				
	①	②	③	④	⑤
1 妊娠期の経過の診断を実施できる。		○			○
2 妊娠期の身体的・精神的・社会的側面を統合し、ケアと指導の実施ができる。		○	○	○	○
3 妊娠期のセルフケア能力の診断と支援を実施できる。		○			○
4 妊娠期の意志決定を尊重し、個別性を考慮した支援を実施できる。	○	○	○		○
5 妊娠期から母乳育児に向けて準備を整えるための指導とケアが実施できる。		○			○
6 家族の役割適応を促すための支援が実施できる。		○	○		○

【授業計画】			
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	1．妊婦、胎児の健康状態の診断 1)問診、外診、内診、臨床検査などの診断技術を用いた母体の健康状態の診断 2)ME 機器、外診などによる胎児および付属物の診断 2．妊婦のケアと保健指導 1)妊婦の身体的変化への適応を促すケア 2)妊婦の心理的、社会的変化への適応を促す支援 3)妊娠期の母親役割取得を促進するための支援 3．妊婦のセルフケア能力の診断と支援 4．妊婦とその家族の意思決定を尊重した支援 1)妊婦とその家族の意思決定の支持 2)パートナーや家族から適切なサポートが受けられるための支援 5．母乳育児を行うための準備と指導 1)母乳栄養選択への動機づけ 2)妊娠各期に応じた乳房ケアについての指導 6．妊婦とその家族の役割適応を促すための支援 1)出産準備教育 2)産後の生活調整を行うための支援	間中伴子 窪田裕子 西脇裕子 非常勤講師	事前課題:以下の既習内容のまとめを行い実習に備える。(300分) 1, 妊娠(妊娠の成立、妊娠の維持機構) 2, 妊娠による母体の変化(生殖器の変化、全身の変化、免疫能の特性) 3, 妊娠中の栄養(母体の健康、胎児の健康、妊娠合併症と母体の栄養) 4, 胎児(胎児の発育、臓器の成熟と期間形成期母体の健康、胎児の発育) 5, 胎児付属物 (卵膜の構造と機能、羊水の生成と機能、臍帯の構造と機能、胎盤の構造と機能) 6, 分娩の基礎(分娩に関する主な概念、分娩の三要素、定義) 7, 新生児の特徴(身体的特徴、生理的特徴、行動上の特徴) 8, 乳幼児の特徴(身体的特徴、生理的特徴、心理・社会的特徴と行動上の特徴) 実習開始後は、日々以下の予習と復習を行う。 予習:受け持った事例の助産診断に基づいたケア計画と実施するために 必要な知識の確認(90分×10日間＝900分) 復習:受け持った事例の助産診断に基づいたケア計画と実施したこと振り返り、記録をまとめる(60×10日間分＝600分)
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			

【アクティブラーニング】		チェック欄	その他の工夫
①:PBL（課題解決型学習）		○	*継続事例を決め、妊娠分娩産褥、新生児、乳児を継続した看護を実践する。 * Googleclassrooを活用し実習に関する情報共有を行う。 *DVDを活用する。
②:反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）		○	
③:ディスカッション・ディベート		○	
④:グループワーク		○	
⑤:プレゼンテーション		○	
⑥:実習・フィールドワーク		○	

【課題のフィードバック】

その都度、メールもしくは面談にて対応する

【成績の評価方法】

評価表に基づく評価
合計:100%

【生成AI利活用（ 有 ）】

1)成績評価の対象となるレポートや実習記録等の作成において、生成 AI が作成した内容(以下、生成 AI の回答文)をそのまま書き写した提出物は、成績評価の対象として認めません。
活用する場合は、その情報が正しいか確認する作業と引用した場合は、引用した内容と引用元(文献や論文)がわかるように記載してください。
2)生成 AI の回答文を書き写したレポートや論文は、「盗用」、「剽窃(ひようせつ)」等の不正行為とみなし、懲戒の対象となる可能性があります。
3)課題レポートに関してはGoogle盗用チェック機能を使用します。チェックの結果に10パーセント以上の盗用が認められた場合は、成績評価対象としません。

【ルーブリック評価の活用（ 無 ）】

【履修申請上の条件】

助産の基礎科目、助産診断・技術学を履修していることが望ましい。

【教科書】 助産診断・技術学Ⅰ（妊娠期）、助産診断・技術学Ⅱ（分娩期）、助産診断・技術学Ⅲ（産褥期・新生児期）、ハイリスク妊娠助産診断・技術学、助産診断・技術演習Ⅰ（妊娠期）、助産診断・技術演習Ⅱ（分娩期）、助産診断・技術演習Ⅲ（産褥・新生児期）、助産管理学、地域母子保健、助産過程演習、地域母子保健演習などの授業に準ずる。
【参考書】 助産診断・技術学Ⅰ（妊娠期）、助産診断・技術学Ⅱ（分娩期）、助産診断・技術学Ⅲ（産褥期・新生児期）、ハイリスク妊娠助産診断・技術学、助産診断・技術演習Ⅰ（妊娠期）、助産診断・技術演習Ⅱ（分娩期）、助産診断・技術演習Ⅲ（産褥・新生児期）、助産管理学、地域母子保健、助産過程演習、地域母子保健演習などの授業に準ずる。
【オープンな教育リソース】 特になし
【担当教員の実務経験】 間中：助産師として臨床では、大学病院、助産所、保健所、院内助産に勤務した。また、大学院助産師教育、看護系大学母性看護学、看護倫理の教育に携わった経験を生かした講義を行う。 窪田：助産師として病院に勤務したのち、長年、助産師教育に携わった経験を生かした教育を行う。 西脇：助産師として、総合病院外来・病棟、助産院での勤務、地域母子保健活動経験をもとに教育を行う。
【オフィスアワー】 益田：学務課を通して対応 窪田、西脇：月～金12:00～13:00
【教員連絡先】 間中：tmanaka@g.t-junshin.ac.jp 窪田：yukubota@g.t-junshin.ac.jp 西脇：ynishiwaki@g.t-junshin.ac.jp
【備考】 事前オリエンテーションに基づいて、自己学習を行う。既習の内容を振り返り、助産師としての自覚をもって主体的に学習して実習に臨む。 助産技術を実践するための知識に基づいた特有の技術を習得するために自己練習に励んでほしい。常に社会情勢に関心を持ち深めることに努めてほしい。

授業科目名	助産学実習Ⅱ（分娩期、産褥・新生児期）	担当教員名	間中 伴子・窪田 裕子・西脇 裕子・非常勤講師							
		区分 （必修・選択）	必修	選択						
			○							
期間	通年	単位／時間数／形態	7単位／315時間／実習							
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】									
	① 職業人としての倫理観と慈悲の心を身につけ、すべての人の生命の尊厳を守り、権利を擁護できる能力。									
◎	② 助産師として必要な知識と助産診断技術、実践力を身につけ自立した助産ケアができる能力。									
	③ 他職種との連携・協働しながら対象者のニーズに応じた支援ができる能力。									
	④ 地域社会が求める助産師の役割や責務を認識し地域の母子保健の発展に貢献できる能力。									
○	⑤ 助産師として自律し、自ら学び、自己研鑽、真理探究することができる能力。									
【授業の概要】										
正常分娩の介助技術の修得、産婦やその家族の主体性を尊重した助産ケアの提供、正常・異常を診断するための実践能力を養う。また、助産ケアの実際を通して、妊産褥婦のセルフケア能力を高め、新生児の母体外生活の適応をはかる助産実践能力を修得する。主に病院や診療所において、正常な経過をたどる産婦の入院から退院までを受け持ち、助産計画にそって分娩介助を10例実施する。異常分娩に対する応急処置の見学・実施を行い、助産師に必要なアセスメント能力とケアについて理解する。具体的には、分娩経過中の母児の健康状態の判断を診断技術を活用した分娩経過の正常・異常の判断により学ぶ。また母体の健康状態の診断、胎児の健康状態の診断は、胎児心拍数モニタリングの判読と対処方法や胎児予備能力の診断、さらに正常な分娩経過への助産ケアを産婦・家族への分娩支援により学ぶ。分娩の進行を促進し産婦の疲労を最小限にとどめる助産ケア、母児に安全で快適な分娩介助や新生児の胎外生活適応への援助、出生した児の状態の判断とケア、親子の愛着を促すケア、緊急時・異常発生時の対応まで実際の場で学ぶ。										
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】						ディプロマ・ポリシー				
						①	②	③	④	⑤
1 分娩経過及び分娩経過中の母児の健康状態の診断ができる。							○			○
2 分娩の進行を正常に保つための助産ケアの実践ができる。							○			○
3 母児に安全で快適な分娩介助ができる。							○			○
4 新生児の胎外生活を促進するための援助ができる。							○			○
5 産婦及び家族の新生児に愛着を促す助産ケアの実践ができる。							○			○
6 助産師として持ち備える姿勢を習得できる。							○			○
【授業計画】										
	授業計画				担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)				
	1 . 分娩経過中の母児の健康状態の判断 1) 診断技術を活用した分娩経過の正常・異常の判断 (1) 分娩三要素と分娩経過の診断・予測 (2) 児娩出時間の予測と修正 2) 母体の健康状態の診断 3) 胎児の健康状態の診断 (1) 胎児心拍数モニタリングの判読と対処方法 (2) 胎児予備能力の診断 2 . 正常な分娩経過への助産ケア 1) 産婦・家族への分娩支援 (1) 快適さの提供 (2) 安心感の保証 (3) 苦痛緩和 (4) 分娩経過に関する情報提供 (5) 基本的ニーズの充足 (6) 産婦の質問への適切な対応 (7) 胎児の状態の情報提供 (8) 母体の状態の情報提供 (9) 情緒的支援 (10) 産婦・家族の要望・訴えへの対応 (11) 産婦の強みの活用 2) 分娩の進行を促進し産婦の疲労を最小限にとどめる助産ケア (1) 産痛緩和 (2) 基本的ニーズの充足 (3) 体位の選択・工夫 (4) 呼吸法・リラックス法 (5) 環境 3) 胎児の健康状態を維持するための助産ケアの実践 3 . 母児に安全で快適な分娩介助 1) 分娩介助の一連の動作 4 . 新生児の胎外生活適応への援助 1) 妊娠・分娩経過から出生する児の状態の予測 2) 出生した児の状態の判断とケア (1) アプガースコアを基準にした観察 (2) 保温 5 . 親と子の愛着を促すケア 1) パースレビュー 2) 早期面会、早期母児接触 3) 父親の没入感情への支援 6 . 緊急時・異常発生時の対応 1) ハイリスク因子の査定 2) 前早期破水時の観察と対応 3) 分娩遷延時の助産ケア 4) 胎児機能不全の早期発見、観察と対応 5) 急遂分娩時の介助の実際(吸引・鉗子分娩時の介助、帝王切開術時のケア) 6) 異常出血時の観察と対応 7) 母体搬送の適応				間中伴子 窪田裕子 西脇裕子 非常勤講師	事前課題:以下の既習内容の復習を行い実習に臨む(300分) 1, 妊娠(妊娠の成立、妊娠の維持機構) 2, 妊娠による母体の変化(生殖器の変化、全身の変化、免疫能の特性) 3, 妊娠中の栄養(母体の健康、胎児の健康、妊娠合併症と母体の栄養) 4, 胎児(胎児の発育、臓器の成熟と期間形成期母体の健康、胎児の発育 5, 胎児付属物(卵膜の構造と機能、羊水の生成と機能、臍帯の構造と機能、胎盤の構造と機能 6, 分娩の基礎(分娩に関する主な概念、分娩の三要素、定義 7, 新生児の特徴(身体的特徴、生理的特徴、行動上の特徴) 8, 乳幼児の特徴(身体的特徴、生理的特徴、心理・社会的特徴と行動上の特徴) 9. 妊娠・分娩・産褥と薬物(薬物の作用と母子への影響、授乳期の薬物摂取と母子への影響) 実習開始後は、日々以下の予習と復習を行う。 予習:受け持った事例の助産診断に基づいたケア計画と実施するために必要な知識の確認(90分×35日間＝3150分) 復習:受け持った事例の助産診断に基づいたケア計画と実施したこと振り返り、記録をまとめる(90×35日間分＝3150分) 分娩介助を行った場合、上記に加え 事後学習:受け持ち事例に対して行った助産過程の記録と知識の確認を行う。 事前学習:翌日以降の実習に必要な知識を確認し、援助技術を事前練習する。 事前・事後学習は、実習時間内の空き時間も利用すること。				
【アクティブラーニング】					チェック欄	その他の工夫				
①:PBL（課題解決型学習）					○	*継続事例を決め、妊娠分娩産褥期を継続した看護を実践する。 *DVDを活用する。				
②:反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）										
③:ディスカッション・ディベート										
④:グループワーク										
⑤:プレゼンテーション										
⑥:実習・フィールドワーク					○					

【課題のフィードバック】 実習記録は教員がコメントを付して返却する。 カンファレンスにおいて、実践状況のフィードバックを行う。
【成績の評価方法】 評価表に基づく評価 合計:100% 【生成AI利活用（ 有 ）】 1)成績評価の対象となるレポートや実習記録等の作成において、生成 AI が作成した内容(以下、生成 AI の回答文)をそのまま書き写した提出物は、成績評価の対象として認めません。 活用する場合は、その情報が正しいか確認する作業と引用した場合は、引用した内容と引用元(文献や論文)がわかるように記載してください。 2)生成 AI の回答文を書き写したレポートや論文は、「盗用」、「剽窃(ひょうせつ)」等の不正行為とみなし、懲戒の対象となる可能性があります。 3)課題レポートに関してはGoogle盗用チェック機能を使用します。チェックの結果に10パーセント以上の盗用が認められた場合は、成績評価対象としません。 【ルーブリック評価の活用（ 無 ）】
【履修申請上の条件】 助産学基礎科目、助産診断・技術学を履修していることが望ましい。
【教科書】 助産診断・技術学Ⅰ(妊娠期)、助産診断・技術学Ⅱ(分娩期)、助産診断・技術学Ⅲ(産褥期・新生児期)、ハイリスク妊娠助産診断・技術学、助産診断・技術演習Ⅰ(妊娠期)、助産診断・技術演習Ⅱ(分娩期)、助産診断・技術演習Ⅲ(産褥・新生児期)、助産管理学、地域母子保健、助産過程演習、地域母子保健演習などの授業に準ずる
【参考書】 助産診断・技術学Ⅰ(妊娠期)、助産診断・技術学Ⅱ(分娩期)、助産診断・技術学Ⅲ(産褥期・新生児期)、ハイリスク妊娠助産診断・技術学、助産診断・技術演習Ⅰ(妊娠期)、助産診断・技術演習Ⅱ(分娩期)、助産診断・技術演習Ⅲ(産褥・新生児期)、助産管理学、地域母子保健、助産過程演習、地域母子保健演習などの授業に準ずる
【オープンな教育リソース】 特になし
【担当教員の実務経験】 間中:助産師として臨床では、大学病院、助産所、保健所、院内助産に勤務した。 また、大学院助産師教育、看護系大学母性看護学、看護倫理の教育に携わった経験を生かした講義を行う。 窪田:助産師として病院に勤務したのち、長年、助産師教育に携わった経験を生かした教育を行う。 西脇:助産師として、総合病院外来・病棟、助産院での勤務、地域母子保健活動経験をもとに教育を行う。
【オフィスアワー】 間中、窪田、西脇:月～金12:00～13:00
【教員連絡先】 間中:tmanaka@g.t-junshin.ac.jp 窪田:yukubota@g.t-junshin.ac.jp 西脇:ynishiwaki@g.t-junshin.ac.jp
【備考】 事前オリエンテーションに基づいて、自己学習を行う。既習の内容を振り返り、助産師としての自覚をもって主体的に学習して実習に臨む。 助産技術を実践するための知識に基づいた特有の技術を習得するために自己練習に励んでほしい。常に社会情勢に関心を持ち深めることに努めてほしい。

別科助産専攻科

2025(令和7)年度

授業科目名	助産学実習Ⅲ(継続事例)	担当教員名	間中伴子、窪田裕子西脇裕子 非常勤講師						
		区分 (必修・選択)	必修	選択					
			○						
期間	通年	単位／時間数／形態	1単位／45時間／実習						
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】								
	① 職業人としての倫理観と慈悲の心を身につけ、すべての人の生命の尊厳を守り、権利を擁護できる能力。								
◎	② 助産師として必要な知識と助産診断技術、実践力を身につけ自立した助産ケアができる能力。								
○	③ 他職種との連携・協働しながら対象者のニーズに応じた支援ができる能力。								
	④ 地域社会が求める助産師の役割や責務を認識し地域の母子保健の発展に貢献できる能力。								
○	⑤ 助産師として自律し、自ら学び、自己研鑽、真理探究することができる能力。								
【授業の概要】									
妊娠中期から産後4か月位まで継続して1事例を受け持ち、継続した助産ケアの実際を通して、対象とその家族へのセルフケア能力を高める助産実践能力を修得する。助産師外来においては、正常妊婦の経過を診断し、QOLの向上のための相談・教育を行える診断技術を修得する。具体的には、産後の母子の正常な経過を促進する援助、生後日数に応じた新生児の診断と援助、褥婦の心理社会的側面の診断と援助、育児の基本行動習得に向けた支援、産後1ヶ月が経過するまでの見通しをもった支援、母乳育児継続のための支援、ハイリスク新生児と児を取り巻く家族に対する援助、産褥期における母親役割、父親役割の獲得に向けた支援、家族関係の再構築を図るための支援を実施する。									
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】					ディプロマ・ポリシー				
					①	②	③	④	⑤
1 継続事例の妊娠期から産後の母子の正常な経過を促進する援助を実施できる。						○			○
2 継続事例の妊娠期から褥婦の心理社会的側面の診断と援助を説明できる。						○	○		○
3 継続事例の育児の基本行動習得に向けた支援を計画し、実施できる。						○			○
4 継続事例の妊娠期から産後1ヶ月までの見通しをもった援助を計画し、実施できる。						○	○		○
5 継続事例の母乳育児の支援を実施できる。						○			○
6 継続事例の妊娠期から産褥期における母親役割、父親役割の獲得に向けた支援を実施できる。						○			○
7 継続事例の妊娠期から産褥期・新生児期まで家族関係の再構築を図るための支援を説明できる。						○			○
【授業計画】									
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)						
1	・妊娠中期から産後4か月までの継続事例を1名受け持つ。 ・継続事例の妊娠中、毎回の健診及び、保健指導に立ちあい、助産計画の立案・ケア実施・評価を通して、個別的継続的支援について学ぶ。 ・継続事例の出産時には、産婦の、生理的側面、心理・社会的側面をアセスメントし、必要な助産ケアを実践する。 ・出産後、産後ケアや退院後の育児支援(家庭訪問を含む)に継続的に関わる。 ・カンファレンスを通し、学生間の学びを共有し、継続支援について考察を深める。 ・妊娠期から助産計画の立案・ケア実施・評価を行う。	間中伴子 窪田裕子 西脇裕子 非常勤講師	事前課題:事前課題:以下の既習内容の復習を行い実習に臨む 1, 妊娠(妊娠の成立、妊娠の維持機構) 2, 妊娠による母体の変化(生殖器の変化、全身の変化、免疫能の特性) 3, 妊娠中の栄養(母体の健康、胎児の健康、妊娠合併症と母体の栄養) 4, 胎児(胎児の発育、臓器の成熟と期間形成期母体の健康、胎児の発育) 5, 胎児付属物(卵膜の構造と機能、羊水の生成と機能、臍帯の構造と機能、胎盤の構造と機能) 6, 分娩の基礎(分娩に関する主な概念、分娩の三要素、定義) 7, 新生児の特徴(身体的特徴、生理的特徴、行動上の特徴) 8, 乳幼児の特徴(身体的特徴、生理的特徴、心理・社会的特徴と行動上の特徴) 9. 妊娠・分娩・産褥と薬物(薬物の作用と母子への影響、授乳期の薬物摂取と母子への影響) 受け持ち決定後は、 予習(90分):状況に応じて健診時期に対応する経過内容を予習し、 個別的なケアに対応できるように、実習前に指導教員と相談の機会を持つ。 復習(90分):当日のうちに、健診内容やケアの状況を記録として整理し、 その後の経過予測に基づき次回健診結果に生かせるようにする。 同時に自身の学びについて考察を深めるために記録を残しておく。						
2									
3									
4									
5									
【アクティブラーニング】			チェック欄	その他の工夫					
①:PBL(課題解決型学習)			○	*継続事例を決め、妊娠分娩産褥期を継続した看護を実践する。					
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)									
③:ディスカッション・ディベート									
④:グループワーク									
⑤:プレゼンテーション									
⑥:実習・フィールドワーク			○						
【課題のフィードバック】									
その都度、メールもしくは面談にて対応する									
【成績の評価方法】									
評価表に基づく評価 100%									
【生成AI利活用(有)】 1)成績評価の対象となるレポートや実習記録等の作成において、生成AIが作成した内容(以下、生成AIの回答文)をそのまま書き写した提出物は、成績評価の対象として認めません。 活用する場合は、その情報が正しいか確認する作業と引用した場合は、引用した内容と引用元(文献や論文)がわかるように記載してください。 2)生成AIの回答文を書き写したレポートや論文は、「盗用」、「剽窃(ひょうせつ)」等の不正行為とみなし、懲戒の対象となる可能性があります。 3)課題レポートに関してはGoogle盗用チェック機能を使用します。チェックの結果に10パーセント以上の盗用が認められた場合は、成績評価対象としません。									
【ルーブリック評価の活用(無)】									
【履修申請上の条件】									
助産の基礎科目、診断・技術学、助産管理、地域母子保健に関する科目を履修していることが望ましい。									

【教科書】 助産診断・技術学Ⅰ（妊娠期）、助産診断・技術学Ⅱ（分娩期）、助産診断・技術学Ⅲ（産褥期・新生児期）、ハイリスク妊娠助産診断・技術学、助産診断・技術演習Ⅰ（妊娠期）、助産診断・技術演習Ⅱ（分娩期）、助産診断・技術演習Ⅲ（産褥・新生児期）、助産管理学、地域母子保健、助産過程演習、地域母子保健演習などの授業に準ずる。
【参考書】 助産診断・技術学Ⅰ（妊娠期）、助産診断・技術学Ⅱ（分娩期）、助産診断・技術学Ⅲ（産褥期・新生児期）、ハイリスク妊娠助産診断・技術学、助産診断・技術演習Ⅰ（妊娠期）、助産診断・技術演習Ⅱ（分娩期）、助産診断・技術演習Ⅲ（産褥・新生児期）、助産管理学、地域母子保健、助産過程演習、地域母子保健演習などの授業に準ずる。
【オープンな教育リソース】 特になし
【担当教員の実務経験】 間中:助産師として臨床では、大学病院、助産所、保健所、院内助産に勤務した。 また、大学院助産師教育、看護系大学母性看護学、看護倫理の教育に携わった経験を生かした講義を行う。 窪田:助産師として病院に勤務したのち、長年、助産師教育に携わった経験を生かした教育を行う。 西脇:助産師として、総合病院外来・病棟、助産院での勤務、地域母子保健活動経験をもとに教育を行う。
【オフィスアワー】 間中、窪田、西脇:月～金12:00～13:00
【教員連絡先】 間中:tmanaka@g.t-junshin.ac.jp 窪田:yukubota@g.t-junshin.ac.jp 西脇:ynishiwaki@g.t-junshin.ac.jp
【備考】 事前オリエンテーションに基づいて、自己学習を行う。既習の内容を振り返り、助産師としての自覚をもって主体的に学習して実習に臨む。 助産技術を実践するための知識に基づいた特有の技術を習得するために自己練習に励んでほしい。常に社会情勢に関心を持ち深めることに努めてほしい。

授業科目名	助産学実習Ⅳ(助産業務管理)	担当教員名	間中伴子、窪田裕子西脇裕子 非常勤講師		
		区分 (必修・選択)	必修	選択	
			○		
期間	通年	単位／時間数／形態	1単位／45時間／実習		
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】				
	① 職業人としての倫理観と慈悲の心を身につけ、すべての人の生命の尊厳を守り、権利を擁護できる能力。				
◎	② 助産師として必要な知識と助産診断技術、実践力を身につけ自立した助産ケアができる能力。				
	③ 他職種との連携・協働しながら対象者のニーズに応じた支援ができる能力。				
○	④ 地域社会が求める助産師の役割や責務を認識し地域の母子保健の発展に貢献できる能力。				
○	⑤ 助産師として自律し、自ら学び、自己研鑽、真理探究することができる能力。				

【授業の概要】

病院・助産所・診療所における安全・経営・災害時等の助産管理の実際について実習を通して学ぶ。さらに、施設間の地域連携の実際について理解を深める。具体的には、助産概論、助産管理学、地域母子保健、助産過程演習、地域母子保健演習などで学修したことを復習して実習に臨む。実習期間中も繰り返し復習する。病院の産科病棟、外来における業務管理の実際は、施設概要、業務内容、スタッフ、教育システムから、緊急時・災害時の対応、社会資源の活用および地域との連携、助産院の活動と管理運営の実際により学ぶ。また、助産業務実践における質と安心・安全を確保するために今後の展望について周産期医療施設それぞれの役割や機能、業務内容、連携システムの実際、助産業務実践における更なる質と安心・安全の確保について臨床スタッフや教員と討論から学ぶ。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】		ディプロマ・ポリシー				
		①	②	③	④	⑤
1	助産業務管理の実際を説明できる		○			○
2	助産業務に必要な法令とその運用について説明できる		○			○
3	災害および異常事態発生時の助産管理における緊急対応の実際を説明できる		○			○
4	地域の周産期管理システムと連携方法を説明できる		○		○	○
5	地域における母子支援活動の実際を説明できる		○		○	○

【授業計画】			
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	1. 病院の産科病棟、外来における業務管理の実際を学ぶ。 ・施設概要、業務内容、スタッフ、教育システム ・緊急時・災害時の対応、社会資源の活用および地域との連携 2. 助産院の活動と管理運営の実際を学ぶ。 ・施設概要、業務内容、スタッフ、教育システム ・緊急時・災害時の対応、社会資源の活用および地域との連携 3. 助産業務実践における質と安心・安全を確保するための今後の展望 周産期医療施設それぞれの役割や機能、業務内容、 連携システムの実際を学び、助産業務実践における更なる質と安心・安全の確保について臨床スタッフや教員と討論する。	間中伴子 窪田裕子 西脇裕子 非常勤講師	事前課題:助産概論、助産管理学、地域母子保健、助産過程演習、 地域母子保健演習などで学修したことを復習して実習に臨む。 実習期間中も繰り返し復習する。
2			1. 助産管理の基本と助産業務管理 (助産管理の基本、助産業務管理の過程、助産業務管理の実際、 場に応じた助産業務管理の特徴、助産業務管理と医療経済) 2. 助産師及び助産師の業務に関わる法と責任 (助産師及び助産師の業務に関わる法と責任(助産師の業務に関わる関係法規、 助産師の法的義務・届出に関わる関係法規、女性の支援に関わる関係法規、 子どもの支援に関わる関係法規 3. 子どもの支援に関わる関係法規 (子どもの支援に関わる関係法規、助産所の管理・運営) 4. 周産期医療における連携・協働(チーム医療における連携) 5. 助産師が行う医療安全と危機管理 (安全対策、医療事故防止対策、災害への備え、災害対策・支援活動)
3			予習(90分):実習計画に基づいて事前課題の見直しを行う。 復習(90分):実習内容を振り返り、記録にまとめる。 わからなかったことなどにさらに学修を深める。
4			
5			

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL（課題解決型学習）	○	課題や予習、復習に、DVDを使用する。
②:反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）		
③:ディスカッション・ディベート	○	
④:グループワーク		
⑤:プレゼンテーション		
⑥:実習・フィールドワーク	○	

【課題のフィードバック】

その都度、メールまたは面談を行う。

【成績の評価方法】

評価表に基づく評価
合計:100%

【生成AI利活用（ 有 ）】

1)成績評価の対象となるレポートや実習記録等の作成において、生成 AI が作成した内容(以下、生成 AI の回答文)をそのまま書き写した提出物は、成績評価の対象として認めません。
活用する場合は、その情報が正しいか確認する作業と引用した場合は、引用した内容と引用元(文献や論文)がわかるように記載してください。
2)生成 AI の回答文を書き写したレポートや論文は、「盗用」、「剽窃(ひょうせつ)」等の不正行為とみなし、懲戒の対象となる可能性があります。
3)課題レポートに関してはGoogle盗用チェック機能を使用します。チェックの結果に10パーセント以上の盗用が認められた場合は、成績評価対象としません。

【ルーブリック評価の活用（ 無 ）】

【履修申請上の条件】

特になし

【教科書】

助産診断・技術学Ⅰ(妊娠期)、助産診断・技術学Ⅱ(分娩期)、助産診断・技術学Ⅲ(産褥期・新生児期)、ハイリスク妊娠助産診断・技術学、
助産診断・技術演習Ⅰ(妊娠期)、助産診断・技術演習Ⅱ(分娩期)、助産診断・技術演習Ⅲ(産褥・新生児期)、助産管理学、地域母子保健、
助産過程演習、地域母子保健演習などの授業に準ずる。

【参考書】 助産診断・技術学Ⅰ（妊娠期）、助産診断・技術学Ⅱ（分娩期）、助産診断・技術学Ⅲ（産褥期・新生児期）、ハイリスク妊娠助産診断・技術学、助産診断・技術演習Ⅰ（妊娠期）、助産診断・技術演習Ⅱ（分娩期）、助産診断・技術演習Ⅲ（産褥・新生児期）、助産管理学、地域母子保健、助産過程演習、地域母子保健演習などの授業に準ずる。
【オープンな教育リソース】 特になし
【担当教員の実務経験】 間中：助産師として臨床では、大学病院、助産所、保健所、院内助産に勤務した。 また、大学院助産師教育、看護系大学母性看護学、看護倫理の教育に携わった経験を生かした講義を行う。 窪田：助産師として病院に勤務したのち、長年、助産師教育に携わった経験を生かした教育を行う。 西脇：助産師として、総合病院外来・病棟、助産院での勤務、地域母子保健活動経験をもとに教育を行う。
【オフィスアワー】 間中、窪田、西脇：月～金12:00～13:00
【教員連絡先】 間中：tmanaka@g.t-junshin.ac.jp 窪田：yukubota@g.t-junshin.ac.jp 西脇：ynishiwaki@g.t-junshin.ac.jp
【備考】 助産業務実践における質と安心・安全がどのように確保されているのか、病院や助産院での実際の業務内容を通して学んでください。 特に緊急時や災害時にどのように対応するのか他職種や地域との連携について学びを深めましょう。

授業科目名	助産学実習Ⅴ（地域母子保健）	担当教員名	間中伴子、窪田裕子西脇裕子 非常勤講師		
		区分 （必修・選択）	必修	選択	
			○		
期間	後期	単位／時間数／形態	1単位／45時間／実習		
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】				
	① 職業人としての倫理観と慈悲の心を身につけ、すべての人の生命の尊厳を守り、権利を擁護できる能力。				
	② 助産師として必要な知識と助産診断技術、実践力を身につけ自立した助産ケアができる能力。				
	③ 他職種との連携・協働しながら対象者のニーズに応じた支援ができる能力。				
◎	④ 地域社会が求める助産師の役割や責務を認識し地域の母子保健の発展に貢献できる能力。				
○	⑤ 助産師として自律し、自ら学び、自己研鑽、真理探究することができる能力。				

【授業の概要】

地域の母子保健の現状を理解するために保健福祉センターで行われている1歳6か月健診・3歳児健診などの母子保健事業を通して、健康支援の実際を学ぶ。また、母子とその家族の健康状態を地域特性に関連付けてアセスメントし、助産師の視点に基づいた母子保健におけるヘルスプロモーションの支援方法を修得する。具体的には、保健所では、地域における母子保健活動の内容、システムから地域で生活する母子への援助の必要性まで実習を通して学ぶ。また、医療機関、助産所、地域との連携、地域の助産師への役割については、異なる施設に勤務する助産師、保健師間の情報共有の方法、母子や家族を支援する職種間の役割と地域社会が求める助産師の役割や責務を認識する。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー				
	①	②	③	④	⑤
1 地域社会で生活する母子を対象とした様々な助産活動を学習し、社会と時代および対象のニーズに即した助産師の役割・業務を説明できる。		○			
2 地域で生活する母子への援助の必要性を説明できる。				○	
3 医療機関、助産所、保健所との連携について説明できる。			○		
4 保健所、保健センターにおける活動及び多職種との連携による、母子の支援を説明できる。			○		
5 助産師独自の機能と業務範囲、法的責任を説明できる。		○			

【授業計画】			
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1			
2	1. 地域における母子保健活動の内容、システム 1) 保健所で行われている母子保健活動の内容・方法 2) 保健所で行われているサービスが、母子に適応されるまでの過程 3) 保健所における母子保健活動の実施評価 4) 保健所で母子保健サービスを行うための人的資源、財政、物的資源の活用について	間中伴子 窪田裕子 西脇裕子 非常勤講師	実習開始前予習 ・助産概論・地域母子保健、地域母子保健演習などの以下の既習科目で学んだことを復習し実習に臨む。 1. 地域母子保健の基本(母子保健の概念、母子の健康に関わる因子) 2. 母子保健の動向と課題 （統計にみる母子保健の動向,母子保健に関する課題,国際母子保健に関する課題） 3. 母子保健行政の体系 （母子保健行政の仕組み、母子保健に関わる法律、母子保健に関わる制度、主な母子保健施策） 4. 地域母子保健活動の実際 （地域の様々な場における助産師の役割,地域における助産師の活動と留意点、母子保健活動における連携・協働） ・実習目標を達成するために必要な情報や自己の課題について調べノートにまとめる。 実習期間中 予習(90分): 実習内容について調べノートにまとめる。 復習(90分): 実習した内容を振り返り記録にまとめ自己の課題に取り組む。
3	2. 地域で生活する母子への援助の必要性 1) 地域で生活する母親の育児状況や親子関係 2) 看護職に対する母子のニーズ 3) 母子、家族支援の課題		
4	3. 医療機関、助産所、地域との連携について 1) 異なる施設に勤務する助産師、保健師間の情報共有の方法 2) 母子や家族を支援する職種間の役割 4．地域の助産師への役割期待について		
5			

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL（課題解決型学習）	○	
②:反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）		
③:ディスカッション・ディベート		
④:グループワーク		
⑤:プレゼンテーション		
⑥:実習・フィールドワーク	○	

【課題のフィードバック】

その都度、メールまたは面談により対応する

【成績の評価方法】

評価表に基づく評価
合計:100%

【生成AI利活用（ 有 ）】

1)成績評価の対象となるレポートや実習記録等の作成において、生成 AI が作成した内容(以下、生成 AI の回答文)をそのまま書き写した提出物は、成績評価の対象として認めません。
活用する場合は、その情報が正しいか確認する作業と引用した場合は、引用した内容と引用元(文献や論文元がわかるように記載してください。
2)生成 AI の回答文を書き写したレポートや論文は、「盗用」、「剽窃(ひょうせつ)」等の不正行為とみなし、懲戒の対象となる可能性があります。
3)課題レポートに関してはGoogle盗用チェック機能を使用します。チェックの結果に10パーセント以上の盗用が認められた場合は、成績評価対象としません。

【ルーブリック評価の活用（ 無 ）】

【履修申請上の条件】

特になし

【教科書】

助産診断・技術学Ⅰ（妊娠期）、助産診断・技術学Ⅱ（分娩期）、助産診断・技術学Ⅲ（産褥期・新生児期）、ハイリスク妊娠助産診断・技術学、助産診断・技術演習Ⅰ（妊娠期）、助産診断・技術演習Ⅱ（分娩期）、助産診断・技術演習Ⅲ（産褥・新生児期）、助産管理学、地域母子保健、助産過程演習、地域母子保健演習などの授業に準ずる

【参考書】 助産診断・技術学Ⅰ（妊娠期）、助産診断・技術学Ⅱ（分娩期）、助産診断・技術学Ⅲ（産褥期・新生児期）、ハイリスク妊娠助産診断・技術学、助産診断・技術演習Ⅰ（妊娠期）、助産診断・技術演習Ⅱ（分娩期）、助産診断・技術演習Ⅲ（産褥・新生児期）、助産管理学、地域母子保健、助産過程演習、地域母子保健演習などの授業に準ずる
【オープンな教育リソース】 特になし
【担当教員の実務経験】 間中：助産師として臨床では、大学病院、助産所、保健所、院内助産に勤務した。また、大学院助産師教育、看護系大学母性看護学、看護倫理の教育に携わった経験を生かした講義を行う。 窪田：助産師として病院に勤務したのち、長年、助産師教育に携わった経験を生かした教育を行う。 西脇：助産師として、総合病院外来・病棟、助産院での勤務、地域母子保健活動経験をもとに教育を行う。
【オフィスアワー】 間中、窪田、西脇：月～金12:00～13:00
【教員連絡先】 間中：tmanaka@g.t-junshin.ac.jp 窪田：yukubota@g.t-junshin.ac.jp 西脇：ynishiwaki@g.t-junshin.ac.jp
【備考】 保健・医療・福祉におけるチームの一員としての自覚をもち、多職種者と協働しながら、助産師の役割を実践するためには自分には何が必要か課題を考えてみてください。 そうすることで、より効果的な実習ができるようになります。

授業科目名	情報科学演習	担当教員名	井上 救			
		区分 (必修・選択)	必修	選択		
				○		
期間	前期	単位／時間数／形態	1単位／30時間／演習			
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】					
	① 職業人としての倫理観と慈悲の心を身につけ、すべての人の生命の尊厳を守り、権利を擁護できる能力。					
	② 助産師として必要な知識と助産診断技術、実践力を身につけ自立した助産ケアができる能力。					
	③ 他職種との連携・協働しながら対象者のニーズに応じた支援ができる能力。					
	④ 地域社会が求める助産師の役割や責務を認識し地域の母子保健の発展に貢献できる能力。					
◎	⑤ 助産師として自律し、自ら学び、自己研鑽、真理探究することができる能力。					

【授業の概要】

講義・演習・研究において、問題解決ツールであるソフトウェアやネットワークについて理解し、和文献の文献検索を習得する。また、統計解析するための基本的な知識(Excelを用いた記述統計)と分析方法を習得する。具体的には、マイクロソフト社のExcelで関連する操作の解説を盛り込み、実際に統計処理をすることで理解が深まるよう教授する。

保健統計のうち基本的なものについて、公表されている統計データの探し方、考え方について解説し、医療に関係する統計データを読み取る力をつける。Excelの基礎(セルの参照、関数の基礎、フラフ作成方法)、Excelによる統計技術(統計代表値、分布、分散と標準偏差、度数分布表とヒストグラム、確率分布・正規分布、区間推定、平均値の差の検定)について演習を通して学ぶ。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー				
	①	②	③	④	⑤
1 Excel基礎について説明できる					○
2 Microsoft Access を用いて、目的に応じたデータベースを作成できる。					○
3 情報を十分に精査し、Microsoft Access を用いて、課題に応じたデータベースを作成できる。					○

【授業計画】			
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	ガイダンス	井上 救	予習・復習(45分): 情報処理科学について予習する。 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 講義後は、講義のポイントを自分で調べノートにまとめ、さらに演習技術を身に着けられるよう、練習を行う。
2	Excelの基礎:セルの参照 セルに入力された値の参照方法について学ぶ	井上 救	予習・復習(45分):セルの参照について予習する。 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 講義後は、講義のポイントを自分で調べノートにまとめ、さらに演習技術を身に着けられるよう、練習を行う。
3	Excelの基礎:関数の基礎1 関数の書式とcount, average, max, minなど基本的な関数の使い方を学ぶ	井上 救	予習・復習(45分):関数について予習する。 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 講義後は、講義のポイントを自分で調べノートにまとめ、さらに演習技術を身に着けられるよう、練習を行う。
4	Excelの基礎:関数の基礎2 if関数等, 論理式や条件式を必要とする関数の使い方を学ぶ	井上 救	予習・復習(45分):関数について予習する。 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 講義後は、講義のポイントを自分で調べノートにまとめ、さらに演習技術を身に着けられるよう、練習を行う。
5	Excelの基礎:グラフ グラフの作成方法を学ぶ。	井上 救	予習・復習(45分):グラフについて予習する。 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 講義後は、講義のポイントを自分で調べノートにまとめ、さらに演習技術を身に着けられるよう、練習を行う。
6	Excelで統計:代表値1 平均値, 中央値について学ぶ	井上 救	予習・復習(45分):代表値について予習する。 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 講義後は、講義のポイントを自分で調べノートにまとめ、さらに演習技術を身に着けられるよう、練習を行う。
7	Excelで統計:代表値1 平均値, 中央値について学ぶ。Excelで統計:代表値3 条件を満たすデータのみ取り出して、その平均値を計算する手法(条件付き平均値)を学ぶ。	井上 救	予習・復習(45分):代表値について予習する。 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 講義後は、講義のポイントを自分で調べノートにまとめ、さらに演習技術を身に着けられるよう、練習を行う。
8	Excelで統計:分散と標準偏差 「データのばらつき」について学ぶ	井上 救	予習・復習(45分):分散と標準偏差について予習する。 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 講義後は、講義のポイントを自分で調べノートにまとめ、さらに演習技術を身に着けられるよう、練習を行う。
9	Excelで統計:分布とは？ 「分布」について学ぶ。	井上 救	予習・復習(45分):分布について予習する。 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 講義後は、講義のポイントを自分で調べノートにまとめ、さらに演習技術を身に着けられるよう、練習を行う。
10	Excelで統計:度数分布表とヒストグラム Excelによる度数分布表とヒストグラムの作成方法について学ぶ。	井上 救	予習・復習(45分):度数分布表とヒストグラムについて予習する。 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 講義後は、講義のポイントを自分で調べノートにまとめ、さらに演習技術を身に着けられるよう、練習を行う。
11	Excelで統計:確率分布・正規分布 確率分布の基礎を学ぶ。	井上 救	予習・復習(45分):確率分布・正規分布について予習する。 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 講義後は、講義のポイントを自分で調べノートにまとめ、さらに演習技術を身に着けられるよう、練習を行う。
12	Excelで統計:区間推定1 「区間推定」の原理を学ぶ。	井上 救	予習・復習(45分):区間推定について予習する。 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 講義後は、講義のポイントを自分で調べノートにまとめ、さらに演習技術を身に着けられるよう、練習を行う。

13	Excelで統計:区間推定2 演習で「区間推定」の理解を深める。	井上 救	予習・復習(45分):区間推定について予習する。 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 講義後は、講義のポイントを自分で調べノートにまとめ、さらに演習技術を身に付けられるよう、練習を行う。	
14	Excelで統計:区間推定3 演習で「区間推定」の理解を深める。	井上 救	予習・復習(45分):区間推定について予習する。 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 講義後は、講義のポイントを自分で調べノートにまとめ、さらに演習技術を身に付けられるよう、練習を行う。	
15	Excelで統計:平均値の差の検定 演習で「平均値の差の検定」の理解を深める。	井上 救	予習・復習(45分):平均値の差の検定について予習する。 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 講義後は、講義のポイントを自分で調べノートにまとめ、さらに演習技術を身に付けられるよう、練習を行う。	
【アクティブラーニング】			チェック欄	その他の工夫
①:PBL（課題解決型学習）			○	
②:反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）			○	
③:ディスカッション・ディベート				
④:グループワーク				
⑤:プレゼンテーション				
⑥:実習・フィールドワーク				
【課題のフィードバック】				
課題レポートに対するフィードバックは、次回の講義に行う。				
【成績の評価方法】				
課題:100%				
【生成AI利活用（ 有 ）】				
1)成績評価の対象となるレポートや実習記録等の作成において、生成 AI が作成した内容(以下、生成 AI の回答文)をそのまま書き写した提出物は、成績評価の対象として認めません。 活用する場合は、その情報が正しいか確認する作業と引用した場合は、引用した内容と引用元(文献や論文元がわかるように記載してください。 2)生成 AI の回答文を書き写したレポートや論文は、「盗用」、「剽窃(ひょうせつ)」等の不正行為とみなし、懲戒の対象となる可能性があります。 3)課題レポートに関してはGoogle盗用チェック機能を使用します。チェックの結果に10パーセント以上の盗用が認められた場合は、成績評価対象としません。				
【ルーブリック評価の活用（ 無 ）】				
【履修申請上の条件】				
マイクロソフト社のExcelがダウンロードされているPCを使用するため、各自ノートPCを用意してください。				
【教科書】				
高木 廣文著 ナースのための統計学 第2版 2009年02月 978-4-260-00772-6 医学書院				
【参考書】				
「ていねいな保健統計学」 白戸亮吉, 鈴木研太 著(羊土社) 「ナースの統計学」 田久浩志・小島隆矢 著(オーム社) 「できる、やさしく学ぶ Excel統計入門」 羽山 博&できるシリーズ編集部 著（インプレス） 「統計学」 高橋麻奈著（技術評論社）				
【オープンな教育リソース】				
特になし				
【担当教員の実務経験】				
東京純心大学 現代文化学部 教授である。				
【オフィスアワー】				
木曜と土曜、日曜祝日以外の12:10～13:00				
【教員連絡先】				
sinoue@g.t-junshin.ac.jp				
【備考】				
特になし				

別科助産専攻科		2025(令和7)年度							
授業科目名	助産研究Ⅰ（基礎）	担当教員名	間中 伴子・窪田 裕子・西脇裕子・大中久子						
		区分 (必修・選択)	必修	選択					
				○					
期間	前期	単位／時間数／形態	1単位／15時間／演習						
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】								
	① 職業人としての倫理観と慈悲の心を身につけ、すべての人の生命の尊厳を守り、権利を擁護できる能力。								
○	② 助産師として必要な知識と助産診断技術、実践力を身につけ自立した助産ケアができる能力。								
	③ 他職種との連携・協働しながら対象者のニーズに応じた支援ができる能力。								
	④ 地域社会が求める助産師の役割や責務を認識し地域の母子保健の発展に貢献できる能力。								
◎	⑤ 助産師として自律し、自ら学び、自己研鑽、真理探究することができる能力。								
【授業の概要】									
助産専門職には、自己や医療チームの実践を客観的に振り返ることを通して提供する助産ケアをより良いものにしていくことが求められる。そのために、文献検討や事例検討を行いこれらの基本能力を向上させることを狙いとする。最新の研究論文を読みその成果を実践に取り入れていくことを学ぶ。具体的には、基礎的な取り組みとして、継続事例に対する事例研究に取り組む。また、事例研究をとおして助産研究の目的と意義を理解し、研究課題に応じた研究方法、倫理的配慮、論文の構造、文献のクリティークについて学習する。5つのグループに分かれて、学生1名が1回は文献のクリティークが経験できるように運営する。最終的には、テーマに基づいた研究計画を立案、実施した結果を研究発表会を行う。									
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】					ディプロマ・ポリシー				
					①	②	③	④	⑤
1 助産学における研究の方法を説明できる。						○			○
2 関連領域の文献検索・収集ができる。						○			○
3 文献検索とクリティークの方法を説明できる。						○			○
4 研究テーマに基づいた研究計画を立案、実施した結果を発表できる。						○			○
5 学会学会に参加し先行研究の発表にふれ、助産師の役割・責務を記述できる。						○			○
【授業計画】									
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)						
1	研究の概要、看護実践と研究、事例研究実施における注意(研究倫理)	間中伴子 窪田裕子 西脇裕子	予習(90分)・復習(90分): 事例研究について予習する。疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 講義後は、講義のポイントを自分で調べノートにまとめ、さらに演習技術を身につけられるよう、練習を行う。						
2	文献検索の実際電子検索等	大中久子	予習(90分)・復習(90分): 文献検索について予習する。疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 講義後は、講義のポイントを自分で調べノートにまとめ、さらに演習技術を身につけられるよう、練習を行う。						
3	文献検索の実際電子検索等	大中久子	予習(90分)・復習(90分): 事例研究のについて予習する。疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 講義後は、講義のポイントを自分で調べノートにまとめ、さらに演習技術を身につけられるよう、練習を行う。						
4	研究計画書について	間中伴子 窪田裕子 西脇裕子	予習(90分)・復習(90分): 事例研究のデータ収集について予習する。疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。講義後は、講義のポイントを自分で調べノートにまとめ、さらに演習技術を身につけられるよう、練習を行う。						
5	事例研究 :データの収集(後期)	間中伴子 窪田裕子 西脇裕子	予習(90分)・復習(90分): 事例研究のデータ分析について予習する。疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。講義後は、講義のポイントを自分で調べノートにまとめ、さらに演習技術を身につけられるよう、練習を行う。						
6	事例研究 :データの分析(後期)	間中伴子 窪田裕子 西脇裕子	予習(90分)・復習(90分): 事例研究について予習する。疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 講義後は、講義のポイントを自分で調べノートにまとめ、さらに演習技術を身につけられるよう、練習を行う。						
7	研究発表会(後期)	間中伴子 窪田裕子 西脇裕子	予習(90分)・復習(90分): 研究発表会の準備を行う。疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 発表後は、講義のポイントを自分で調べノートにまとめ、さらに演習技術を身につけられるよう、練習を行う。						
8	論文作成(後期)	間中伴子 窪田裕子 西脇裕子	予習(45分)・復習(45分): 研究発表会について予習する。疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 講義後は、講義のポイントを自分で調べノートにまとめ、さらに演習技術を身につけられるよう、練習を行う。						
【アクティブラーニング】			チェック欄	その他の工夫					
①:PBL（課題解決型学習）			○	ビジュアルクラウドやDVDを活用する。 Googleフォーム、課題レポートの提出に関してはGoogleドキュメントを活用する。					
②:反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）			○						
③:ディスカッション・ディベート			○						
④:グループワーク			○						
⑤:プレゼンテーション			○						
⑥:実習・フィールドワーク									
【課題のフィードバック】									
その都度、メールもしくは面談にて行う。									

【成績の評価方法】 課題レポート50％ 研究計画書50％ 【生成AI利活用（ 有 ）】 1)成績評価の対象となるレポートや実習記録等の作成において、生成 AI が作成した内容(以下、生成 AI の回答文)をそのまま書き写した提出物は、成績評価の対象として認めません。 活用する場合は、その情報が正しいか確認する作業と引用した場合は、引用した内容と引用元（文献や論文元がわかるように記載してください。 2)生成 AI の回答文を書き写したレポートや論文は、「盗用」、「剽窃(ひょうせつ)」等の不正行為とみなし、懲戒の対象となる可能性があります。 3)課題レポートに関してはGoogle盗用チェック機能を使用します。チェックの結果に10パーセント以上の盗用が認められた場合は、成績評価対象としません。 【ルーブリック評価の活用（ 無 ）】
【履修申請上の条件】 特になし
【教科書】 講義の際、提示します。
【参考書】 さあ！事例研究に挑戦しよう【電子版】 下山 節子／江藤 節代 【ISBN】978-4-88875-260-2 2013年 06月 日本メディカルセンター
【オープンな教育リソース】 特になし
【担当教員の実務経験】 間中：大学院・大学の教員としての経験と助産師としての経験を生かした教育を行う。 窪田：助産師として病院に勤務したのち、長年、助産師教育に携わった経験を生かした教育を行う。 西脇：助産師として、総合病院外来・病棟、助産院での勤務、地域母子保健活動経験をもとに教育を行う。 大中久子：図書・研究支援係長として得た経験を生かした講義を行う。
【オフィスアワー】 間中・窪田・西脇：月～金12:00～13:00 大中：その都度、図書・研究支援課に問い合わせ
【教員連絡先】 間中：tmanaka@g.t-junshin.ac.jp 窪田：yukubota@g.t-junshin.ac.jp 西脇：ynishiwaki@g.t-junshin.ac.jp 大中：htanaka@g.t-junshin.ac.jp
【備考】 年間を通じて取り組む科目です。この科目では、実習の受け持ち事例の中から研究課題を決めて、事例研究として研究計画書および研究レポートを作成します。 個人での取り組みとグループでの取り組みがあります。学生動詞で協力して取り組むことで、より助産学を深めることができます。 臨床での学びを客観的に振り返り、助産ケアについて追究していく視点を養いましょう。

授業科目名	助産研究Ⅱ（実践）	担当教員名	間中 伴子		
		区分 （必修・選択）	必修	選択	
				○	
期間	通年	単位／時間数／形態	1単位／30時間／演習		
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】				
	① 職業人としての倫理観と慈悲の心を身につけ、すべての人の生命の尊厳を守り、権利を擁護できる能力。				
	② 助産師として必要な知識と助産診断技術、実践力を身につけ自立した助産ケアができる能力。				
	③ 他職種との連携・協働しながら対象者のニーズに応じた支援ができる能力。				
	④ 地域社会が求める助産師の役割や責務を認識し地域の母子保健の発展に貢献できる能力。				
◎	⑤ 助産師として自律し、自ら学び、自己研鑽、真理探究することができる能力。				

【授業の概要】

助産専門職には、自己や医療チームの実践を客観的に振り返ることを通して提供する助産ケアをより良いものにしていくことが求められる。そのために、文献検討や事例検討を行いこれらの基本能力を向上させることを狙いとする。最新の研究論文を読みその成果を実践に取り入れていくことを学ぶ。基本的には、継続事例に対する事例研究に取り組む。具体的には、助産(看護)現象を客観的に捉え、問題を科学的に探求する看護研究の方法を学習するとともに、研究的思考能力を養う。文献検索、クリティークを重ねたうえで研究テーマの絞り込みを行い、事例研究のテーマから論文作成までの一連の流れを実施することで研究に活用する基礎的能力を修得する。さらに、学修過程において、他者にわかりやすくプレゼンテーションする能力、相互にディスカッションする能力を強化する。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー				
	①	②	③	④	⑤
1 助産における根拠に基づく助産実践の重要性を説明できる。					○
2 助産にかかわる既存の研究の検討を通して、臨床疑問(クリニカル・クエスチョン)の見つけ方を説明できる。					○
3 論文の書式、表現、論理構成などを説明できる。					○
4 助産における研究結果と実践への応用について説明できる。					○

【授業計画】			
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	ガイダンス	間中伴子	予習(15分):シラバスあるいは授業で示される次の授業内容を確認し、予習する。 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 復習(30分):講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる。
2	文献検索	間中伴子	予習(15分):シラバスあるいは授業で示される次の授業内容を確認し、予習する。 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 復習(30分):講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる。
3	文献検索	間中伴子	予習(15分):シラバスあるいは授業で示される次の授業内容を確認し、予習する。 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 復習(30分):講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる。
4	クリティーク	間中伴子	予習(15分):シラバスあるいは授業で示される次の授業内容を確認し、予習する。 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 復習(30分):講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる。
5	クリティーク	間中伴子	予習(15分):シラバスあるいは授業で示される次の授業内容を確認し、予習する。 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 復習(30分):講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる。
6	クリティーク	間中伴子	予習(15分):シラバスあるいは授業で示される次の授業内容を確認し、予習する。 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 復習(30分):講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる。
7	研究テーマ決定	間中伴子	予習(15分):シラバスあるいは授業で示される次の授業内容を確認し、予習する。 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 復習(30分):講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる。
8	研究計画立案	間中伴子	予習(15分):シラバスあるいは授業で示される次の授業内容を確認し、予習する。 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 復習(30分):講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる。
9	研究計画立案	間中伴子	予習(15分):シラバスあるいは授業で示される次の授業内容を確認し、予習する。 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 復習(30分):講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる。
10	研究計画発表プレゼンテーション資料作成	間中伴子	予習(15分):シラバスあるいは授業で示される次の授業内容を確認し、予習する。 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 復習(30分):講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる。
11	研究計画発表	間中伴子	予習(15分):シラバスあるいは授業で示される次の授業内容を確認し、予習する。 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 復習(30分):講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる。
12	論文作成	間中伴子	予習(15分):シラバスあるいは授業で示される次の授業内容を確認し、予習する。 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 復習(30分):講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる。
13	論文作成	間中伴子	予習(15分):シラバスあるいは授業で示される次の授業内容を確認し、予習する。 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 復習(30分):講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる。

14	論文作成	間中伴子	予習(15分):シラバスあるいは授業で示される次回の授業内容を確認し、予習する。 疑問があれば質問や確認をまとめて講義に参加する。 復習(30分):講義のポイントを自分で調べ自己ノートにまとめる。	
15	まとめ	間中伴子	予習(30分):予習発表した論文を修正する。 講義全体を振り返り、分からないことを抽出する。 復習(15分):今まで学んだ内容をノートにまとめる。	
【アクティブラーニング】			チェック欄	その他の工夫
①:PBL（課題解決型学習）			○	ビジュアルクラウドやDVDを活用する。 Googleフォーム、課題レポートの提出に関してはGoogleドキュメントを活用する。
②:反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）			○	
③:ディスカッション・ディベート			○	
④:グループワーク			○	
⑤:プレゼンテーション			○	
⑥:実習・フィールドワーク				
【課題のフィードバック】				
課題レポートに対するフィードバックは、次回の講義に行う。				
【成績の評価方法】				
講義・演習参加状況(20%)、プレゼンテーション内容・発表(20%)、論文提出内容(60%)を総合的に判断する。 合計:100%				
【生成AI利活用（有）】 1)成績評価の対象となるレポートや実習記録等の作成において、生成 AI が作成した内容(以下、生成 AI の回答文)をそのまま書き写した提出物は、成績評価の対象として認めません。 活用する場合は、その情報が正しいか確認する作業と引用した場合は、引用した内容と引用元(文献や論文元がわかるように記載してください。 2)生成 AI の回答文を書き写したレポートや論文は、「盗用」、「剽窃(ひょうせつ)」等の不正行為とみなし、懲戒の対象となる可能性があります。 3)課題レポートに関してはGoogle盗用チェック機能を使用します。チェックの結果に10パーセント以上の盗用が認められた場合は、成績評価対象としません。				
【ルーブリック評価の活用（無）】				
【履修申請上の条件】				
特になし				
【教科書】				
牧本清子・山川みやえ 編著:よくわかる看護研究論文のクリティーク 第2版 2020年978-4-8180-2271-3 看護協会出版会 前原 澄子著:助産学研究入門 2003年 978-4-260-33268-2 医学書院 黒田裕子著:黒田裕子の看護研究step by step 第4版医学書院(ISBN:978-4-260-01596-7)				
【参考書】				
APA 論文作成マニュアル第3 版 アメリカ心理学会 医学書院 2023 「尺度」を使った看護研究のキホンとコツ 第2版 川本利恵子 日本看護協会出版会				
【オープンな教育リソース】				
特になし				
【担当教員の実務経験】				
助産師として臨床では、大学病院、助産所、保健所、院内助産に勤務した。また、大学院助産師教育、看護系大学母性看護学、看護倫理の教育に携わった経験を生かした講義を行う。				
【オフィスアワー】				
間中:月～金 12:10～13:00				
【教員連絡先】				
間中:tmanaka@g.t-junshin.ac.jp				
【備考】				
エビデンスにもとづく助産ケアのための助産学研究の方法と実際を学ぶことは、助産師の役割・責務を再認識する機会となります。				